ゆうかり

第2回移住者子弟技術研修生
報告レポート

[redacted]

[redacted]年3月

[redacted]

国際協力事業団	
受入月日 '84. 3. 9	000
登録No. 00020	EIA

ま　え　が　き

国際協力事業団が昭和４６年度から実施している移住者子弟技術研修制度も本年４月に第９回生を迎えることになり，中南米より受入れた研修生は，現在研修中の第７，８回生を含め，総数１２５名となりました。

各研修生は，幼い頃，家族と共に移住して成人した者，あるいは二世の方が選ばれて，父母が生まれた土地を踏みしめた感慨は非常に深かったでありましょう。

１８ヶ月間の基礎理論の学習と実習は、研修生諸君の旺盛な学習意欲を満足させるに到らなかったかもしれないが，これまで，研修機関々係者の絶大なるご協力と研修先の諸先生の特別のご指導，並びに研修生諸君の「学ばんとする強い意欲」が協和した結果，この制度が高い評価を維持しているものとなっており，誠に喜ばしいことであります。

自家農業の一翼を担い問題意識をもっている若者が１０年或はもっと将来の"営農像"を示唆しているであろう日本農業を目のあたりにして，学習と体験の中から得たものは，必ずや帰国後の営農や地域活動の中で年と共に生かされてゆくことを確信いたします。

研修生諸君の帰国後の活躍がより一層活発となることが期待されるのであるが，本誌が帰国した研修生の報告として，お互いの技術交換の場とし，励みとしていただきたいこと，併せて本研修制度をより一層推進するための材料とし，又，各研修先へのお礼の一端にかえさせていただくため発刊した次第です。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解下さり，研修生諸君を温くご指導頂った関係諸機関の皆様方に改めて感謝の意を表する次第です。

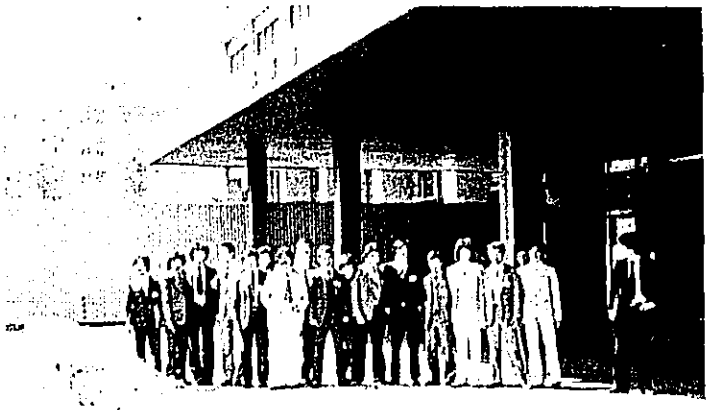
JICA LIBRARY
1023834[3]

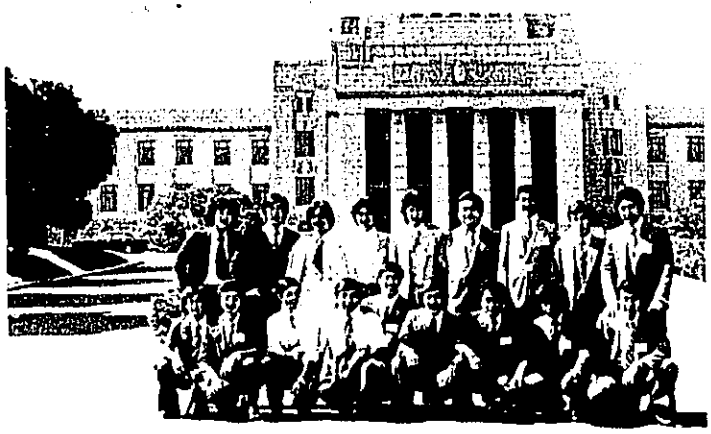
１９７９年３月

国際協力事業団

移住国内事業部長

第７回移住者子弟技術研修生





目　　次

はじめに

技術研修を終えて

ブラジル国	イタペテ	土生誠一	1
	ロンドリーナ	髙橋昇ジュリオ	2
	パルパセーナ	市来清文	3
	サンパウロ	樋口寛	5
	〃	服部ロウレンソ	7
	スザノ	上西川原猛	8
	サンタイザベル	三宅正剛	9
	ポルトベーリョ	服部元	11
	サンバドール	平田繁実	13
パラグアイ国	ラ・コルメナ	三井昭	15
	イグアス	佐藤満	17
アルゼンチン国	ウルキッサ	西田克己	19
	ヘネラルパチェコ	光田友宏	21
ボリビア国	サンファイン	上野克之	23
	〃	川上啓介	24
	オキナワ第一	安里マルセロ	26
ドミニカ国	レモンデ・ジゥナ	川代康夫	27

日本の印象

市来清文	29
土生誠一	30
樋口寛	31
上野克之	32
上西川原猛	33
三宅正剛	34
服部元	35
荒槇文彦	36

第18回全国農村青少年技術交換大会に参加して

三井昭	37
光田友宏	38
上野克之	39
安里マルセロ	40

合同研修会に参加して

市来清文	41
荒槇文彦	42
川上啓介	43
佐藤満	44

技術研修を終えて

「日本での技術研修を終えて」

土生誠一

1年間の花卉園芸、半年のアルミサッシ、限られた1年半の研修期間が終えようとしている。
今考えると、アッと言う間に過ぎてしまつた様な気がする。振り返つて見れば、この短い期間に、いろいろなことにぶつかり、また多くの人と知り合うことが出きた。
1年間お世話になつた園芸試験場での生活は、じつに楽しかつた。
毎日、午前8時30分に市場に行き、ハウスの窓を開け、温度をはかり、それから実習にかかつたものだつた。
宿泊は寮であつたため、門限などいろいろ規則があり、きびしかつた。また、寮生である学生たちと何度か飲んだりして楽しんだこともあつた。
研修も順調に行き、とくにメリクロン栽培などは始めての体験であつた。もちろん自分の思いどおりに行かないこともあつたが、その経験は、全部プラスになつた。
また人間関係も最高によく、先生方、臨時に働いていたおばちやん方、学生方、それに食堂のおばちやんにはとくによくしてもらつた。この試験場（宮城県農業センター）にお世話になつたおかげで、花を栽培している所を、ほうほう案内してもらい、たいへん勉強になつた。
研修はもちろん大事だが、日本を見ることも必要だと思い、北海道から九州までゆつくりではなかつたけど行つてきた。とくに印象に残つたのは、青森県の十和田に行つたとき、ちようど紅葉だつたので、とてもきれいだつた。ブラジルでは、ちよつと見られない景色である。
試験場での研修が終るとともに、やはり1年もいると人情が移り、別かれるのがなんとなくさみしかつたが、私と試験場との間につながりができ、国に帰つてからでもまだお世話になることもあるだろう。
あとの半年は、個人の家に寝泊りし、アルミサッシとガラスの研修をした。
この会社に来て約1カ月ぐらいはほとんど何にもできず、ただ人がやることを見ている状態であつた。
2カ月目には、だんだんと仕事を覚えてきて、最初にガラスの切りかたを教えてもらつた。これもいろいろとこつがあり、なかなかうまくいかず、暇をみてなんども練習を続け、いまではじようずに切れるようになつた。
次にアルミサッシについて教えてもらい、加工、組立て、取つけなど、やはり難かしい点がたくさんあり、なかなかうまくいかず、なんどか失敗したこともあつた。
アルミもガラスと同じで何ミリかの違いで狂うため、よほど慎重にやらないといけないものだと思つた。
なんどか現場に行つたこともあるが納まりぐあいがいかに大事だかがわかつた。
やはり農業をやつていた私には、全然別なことを始めたため、難しいことばかりであったが、みんなに少しずつ教えてもらったおかげで、いまではほとんどのことをやりこなせるようになった。
会社の従業員の方々は私と同じぐらいの年だったので話し合いチームワークも良くたいへんよかった。また日曜日にはボーリングやドライブしたり、つりにもなんどか連れていってもらい楽しんだものだった。
私が日本に来てもうすぐ1年半が過ぎようとしているが、この長いようで短い期間に、つらいこともあつたが、いろいろなことを経験できてほんとうによかつたと思つている。
研修中にも多くの人と知り合うことができいろんな所を見学し、私の青春時代で最高だと思つている。これから帰国し、日本で学んだことをどれだけ生かせるかは、自分自身との戦いと努力しだいであろう。
心を新たにしこの1年半の間あたたかく御指導して下さつた先生方、それにこの技術研修をさせて下さつた国際協力事業団にお礼申し上げます。
ありがとうございました。

「技術研修を終えて」

高橋　昇ジュリオ

私はブラジル国、パラナ州、ロンドリーナ市フレーザ区に住み、１８カ月の研修期間で、昭和５２年、４月以降、昭和５３年、９月までの間、群馬県蚕業試験場において、養蚕について技術研修を受けました。

ブラジルの日系２世で北海道出身の両親との間に生れ、７人兄弟の長男です。祖父の代に移住したのですが、もう１５年になります。パラナ国立大学、農学部を卒業し、両親とコーヒ園５３ヘクタール、桑園７ヘクタールを栽培しています。

ブラジルは日本からいえば丁度地球の裏側で時差は１２時間ある。距離にしても日本からは世界で一番遠いところにあろう。そしてその面積は日本の２３倍、南米大陸の４７％、世界陸地の１６分の１の面積をもつといつたらさすがに広いという想像がつくかも知れない。気候は日本のように四季はなく、雨期と乾期に分けることが出来よう。乾期は７月から９月まで、あとは雨期となる。

人種のるつぼという言葉があるが本当に人種は様々である。黒人もいれば、白人もいる。７分黒もいれば半黒、２分黒もいる。第一この国はポルトガル、スペイン、イタリーなどラテン系を基盤にアフリカから、下層労働者として渡ってきた黒人、それに原住民のインデオが加わっている。それに加えて東洋人の血がまじるというのだから推して知るべしで、混血などというものではない。混血の混血である。

だから都市にあふれる人種は世界の人種の展覧会を見るようである。感心なことには人種的差別は絶対にあり得ないということである。いわば人間として価値ある人間がえらいのでその人には尊敬するという国なのである。

ブラジルの養蚕は、州の各地で行われてきた歴史があるが、現在行われているのはサンパウロ州、パラナ州、ミナスジエライス州、マット・グロソ州に多いのです。現地での養蚕の蚕期は、秋蚕期９月～１２月、夏蚕１月～４月、晩秋蚕期４月～６月と分けることができる。飼育は日本と同じで大型のハウス内での飼育と考えればよい。１回の掃立量は１４０～１５０グラム程度で１回のしゆうけんりようは、やく４００キロ前後である。日本式に、箱当りしゆうけんりようで表わせば、はこ当り３０キロということになります。

パラナ州ではこの５、６年の間にたつた１０戸の養蚕農家が６０倍の６０６戸になり、また桑園面積もわずか７３ヘクタールが5,３２４ヘクタールと７０倍になりました。気候が適しており、年間の飼育回数は８回～１１回飼育でき、日本の製糸会社も進出しており、これからもつとさかんになるでしよう。

私がこの１ケ年半蚕業試験場において学んだ事は、まず昨年の春蚕期を育蚕課で稚蚕共同飼育標準表に基づいた基礎的な飼育方法を、壮蚕は多段循環式自動飼育を実習し、初秋蚕期種課で種取り実習、夏秋蚕用蚕品種の性状調査、催青法、卵の保護法をおこない、晩秋蚕期は病害虫課で、農薬、シラミダニ、糸状菌、顕微鏡による蚕のウイルス病の診断をおこなう。本年度は、春蚕期を病害虫課にて蚕の病気全般について実習をおこなう（パラフイン切片の作製、螢光光体法、電気泳動による病気の診断）をおこなつた。初秋蚕期を蚕種課で原蚕飼育法、検取り実習、人工ふ化法、卵の冷蔵、微粒子病の検査などをおこなう。

晩秋蚕期は川場村において現地研修を行つた。稚蚕期は共同飼育所にて、壮飼期は大規模農家において、掃立から上簇まで研修をしてきた。

１ケ年半の研修を振り返つて見て、養蚕技術の勉強はもちろんですが、いろいろな面で知識を広める事ができ、多くの友も得て、私にとつて一生忘れることが出きない。

最後になりましたが研修期間中詳しく御指導して下さいました蚕業試験場の先生方に心より御礼申し上げます。又この様な機会を与えて下さつた国際協力事業団の皆様方にも心より感謝を致します。

「技術研修を終えて」

第7回研修生　市　来　清　文

1年6カ月間の研修期間があつと言うまに過ぎていった感じです。研修前は、いろいろな内容の研修をしたいと考えていましたが、結局、最初の1年間は、熊本県農業試験場で残り6カ月間は、広島県の美香園で研修を行ないました。研修内容については、次の4項目に分けて、大まかに要約してみました。

1．菊の栽培と経営（熊本県農業試験場）

日本菊の有望品種（ブラジル国での栽培の為）の選択について、試験場で試験研究させてもらいました。代表品種（大半が秋菊）約2百種を栽培しながら、耐病性（特にさび病）の強弱、樹勢の良悪、開花日数の長短、草丈、茎の強弱、花弁の強さ、花型、花径、花色等を、観察、調査しました。それに、日本での評価を、研究員の人に聞き、総合判断した結果、約15品種を有望とみて、選択し、ブラジルで、栽培してみるつもりです。

栽培法については、私の電照周年栽培とは異なり、作付け品種により、花の均一出荷、労力の均一化を考えていました。その為か、菊の専業農家が大へん少ないと思いました。

品種は中輪が多く、茎が細く大へん弱い感じがしました。又、栽培面積が大へん小さく蕾の状態で出荷するなど、私の栽培とは異なる点が多く、吸収する事は、少なく思いました。

2．カーネーションの栽培と経営（広島県の美香園での実習、神奈川県、福岡県、広島県の優秀農家を視察）

品種は、大輪は、そんなに変わらないが、スプレーカーネーションが大へん多くなつて来ています。施設は、温室、ベッド式、ボイラーの設置等、鉄とセメントをうまく利用している、近代施設です。栽培法は、定植前に、蒸気消毒法で完全に殺菌し、苗はウイリスフリ苗を使いますので、土、苗、環境と完全に近い状態（無病の状態）で栽培します。だから、後の管理が、大へんスムーズにいきます。施肥は、液肥主体で自動灌水なので、大へん省力化に役立つています。経営的にみると、施設費への投資が多く、省力化を考えています。私達とは、逆の状態です。又、面積当りの収益が高いのには、おどろきました。単価が高い為でしょう私達の4倍近くあげています。

3．バラの切花栽培について（神奈川県、福岡県、熊本県の優秀農家の視察）

栽培法は、土壌消毒を行なう、薬散は、ブルスフォグを使用する等、近代的栽培法です。品種は常に新品種を追いかけているみたいです。そうなるのも当然でしょう。市場での、品種間による価格に大差があるからです。又、一本一本を大切に、高品質なものを生産する為、念入りに管理しています。

4．生長点培養法について（熊本県農業試験場と広島県の美香園）

カーネーションを主体に、ユリ、菊の培養法を研修しました。試験場の方々が大変親切に指導して下さり感謝しています。まず試験管、器具類の洗滌から始まり、器具の消毒の仕方、薬品の計り方、溶かし方と一からいろいろ教えてもらいました。培地の作成、生長点の切り方、植え付けと、2回、3回とやるうちに、自分でも出来る自信がついてきました。そして、培養したものを鉢上げする時の注意、その後の施肥法、培養土の種類、苗の取り扱い方、ピンチの仕方と時期、それから、一番大事なウイリス検定の行い方、反応の出方、と、研修しました。又、美香園では、その苗をいかに無病の状態で増殖し、販売するかを、御主人の指導により研修しました。

私の研修内容は、以上のような事です。私の考えていた事の7、8割は研修出来たと思います。まだまだいつぱい研修したい事はありますが、期間と場所に限りがありますので大変残念です。思えば、国民体育大会、全国少年技術交換大会と、合同研修会もあり、専門以外の社会勉強もさせてもらいました。この思い出は一生忘れる事はできないでしょう。

国際協力事業団の方々、熊本県農業試験場の方

々、又、美香園の人達と、親切に、御指導、御世話いただき有難うございました。1年半、大へん有意義な研修が出来ました。このみなさんの厚意と研修した事を、今後のブラジル花きの発展の為にに、少しでも役立つように、努力し、頑張つて行きたいと思います。1年半、どうも有難うございました。

「技術研修を終えて」

サンパウロ　樋口　寛

第７回移住者子弟技術研修生として、昭和５２年４月に来日してから、早や１年半の歳月がすぎようとしています。後１ケ月ぐらいで帰伯するのかと思うと、色々と今までの楽しかつた事つらかつた事が思い出されて来ます。

ブラジルへ移住してから１９年の間、常に日本へは１度は行きたいと思つていたのですが、それは夢の又夢でした。１６の歳より大人の社会に入り、１０年の間、建築請負業を本業にして来ましたが、そんな矢先に事業団が技術研修生を募集していると聞き、応募して無事来日する事が出来ました。

日本に来れる事を知つた時は、言葉では言い表せないほどうれしく思いました。私の研修科目は建築施工ですので、戸田建設㈱にお世話になりましたが、まず初めに、赤羽のマンションの建築現場に配属されました。

そこは、１１階建てのマンションで、建物は中規模の建築物でした。私が配属された時は、程程躯体工事も終り、ちようど仕上げ工事の途中でした。防水工事、タイル工事、内装工事などにたずさわり、ブラジルと日本がどれだけ施工の違いがあるのかなどを勉強して来ましたが、初めの３ケ月ほどはいろいろな物品の名称及専門用語が分らず、大変苦労しました。私の場合、日本語は話す事も読む事も別にむつかしくはないのですが、書く方になると出来ませんでした。しかし、研修生だと知つているのは、戸田建設の社員だけで、職方の人は知りません。何も知らない私が、戸田建設の現場監督として職方の人を相手にする為には、１日も早く、名称や仕事の内容をおぼえなければと思い必死でした。私は職方の人から、ブラジルから来たから何にも知らないんだとは、言われたくありませんでした。その赤羽の現場に約半年間程どお世話になり、次に配属されたのが日本橋のホテル建設でした。ここは戸田建設の配慮により、杭工事から仕上げ工事まで、建築工事施工全般にわたつて体得する事が出来ました。しかし、日本の建築施工のシステムは、ブラジルのそれとは全々違う為、どれだけ私に勉強になつたかはわかりませんが、それは私が帰伯して、学んだ事をどれだけ応用出来るかで決まるのではないでしようか。

日本の建築施工にはいろんな点に、レベルの高さが見られます。機械の多用、施工図の精密さ、安全設備の徹底などがそれです。機械を多用するのは、やはり人件費が高いからではないかと思います。人を使うよりも機械を使つた方が能率的なのは分かりますが、ブラジルでは人を使つた方が安上りなのでどうしても人海戦術になつてしまいます。ですから多くの分野においても、機械化が発達しないのではないでしようか。施工図においても、書き入れてある寸法の単位が日本ではミリですが、ブラジルではセンチを使つています。これは図面をより正確にする為には単位は小さい方がいいようです。ブラジルでは施工の上で、５ミリや１０ミリの違いは何でもないように言いますが、日本ではやりなおさなければならない場合もあります。安全設備においては雲泥の差があり、いかに人命を尊重しているかがわかります。そして施工面だけではなく建物においても、火災予防、煙探知器、消火の諸設備を完全に設置している事には感心しました。ブラジルも大いに見ならわなければと思います。私は研修科目の他にも、いろんな人生勉強を学ぶ事が出来ました。この１年半の間にいろんな人達と出会い、又いろんな所へも行きましたが、一番強く感じたのは若い人達は社交性があまりないと思いました。人が冗談を言つてもおもしろくなければ笑わないし、失礼になるような言葉でも平気で口にするし、まるで人の事などどうでもいいと云う様な考えを持つている人が多い様に見受けました。こう云う弾力性の無い性質になるのは、日本の雇用システムすなわち終身雇用制とか、年功序列性などに起因するのではないでしようか。一流企業に入る為により一流の大学に入り、２２～２３の歳まで勉強一筋に打込み、メデたく一流企業に入れれば後は定年退職まで安定した生活をおくる事が出来ます。しかし私は思

います。人生の出発点から早や終末が見える事はあまりにも夢が無いのではないでしょうか。私は自分が死ぬ時は、百％人生を使つたと満足して死にたいと思つております。日本は前述したようなマイホーム主義的な考えを持つた人にはすばらしい所ですが、私は将来性のある、そして夢のあるブラジルをえらびます。最後に、国際協力事業団並びに戸田建設株には、レベルの高い日本で研修をさせていただき、何とお礼の言い様もありません。私の今からの人生にどれだけプラスになるか分りません。本当にありがとうございました。

「技術研修を終えて」

服部　ロウレンソ

昭和５２年４月３日、この日から、新しい生活２世の１ページが始まりました。私はブラジル国で２世として生れ、地球の裏にあり距離として一番遠い所だと考えられます。日本の生活を何もわからなかつた私にとつて一日が長く感じた日があり、最初はいろんなことが頭の中で浮かび不安定なこともありました。１年半の研修が今月で終ろうとしています。日本に着いた当時を思い出すと、どんなにこの１年半が早くたつようにと、願つた時を思い出し、何度かは、どうしてこんな遠い所まで来てしまつたんだろうと、不安な日もありました。でも今は、国際協力事業団、第７回子弟研修生として、すばらしい人生の１ページをかざる事ができたと思つています。

私はブラジル、サンパウロ市で、電話交換機の工事会社である、デンパプラスに３年間勤めていました。その当時、日本からスーパーバイザーとして、現在研修しています日本通信建設のかたがたと一緒に仕事をしながら、日本のお話しを、聞かせてもらいました。でも、その当時は、日本へきて、交換機の技術を勉強できるなんて、夢にも思いませんでした。研修生として、日本通信建設におせわになり、ブラジルで一緒に仕事をしたかたがたとも再会し、みなさんにめんどうを、見てもらいましたので、大変たすかりました。

最初は、どうなるか心配していた私は、みなさまのおかげで、日本の生活になじみ、毎日の研修を、楽しく過してきました。今までの１年半の生活の中でも、青森国体、広島での全国農村青少年技術交換大会等の研修旅行や、父の故郷である秋田へ行き、たくさんのみやげ話ができた事が、特に思い出として残つています。又、１年半の生活で、楽しい事、苦しい事もたくさんありましたが、それぞれあればこそ勉強になるんだと思えば、この研修期間は、本当に幸せでした。

現在まで学んできました研修内容を振り返りますと、４月～５月、日本の電話網、日本とブラジルの電話システムの違い等を、日本通信建設の技術調査研究グループの方から説明を受けました。５月～６月、小石川電話局の市外、市内交換機の増設における信号線のつなぎ込みと各装置の工事試験を行ないました。６月～８月、関東通信技術学園で、Ｃ４００クロスバー交換機専修訓練を受けました。９月～１１月、丸ノ内局で、Ｃ４００クロスバー交換機の建設工事、トランク増設制御装置の改造、各々の機能試験、１１月～１２月、電信電話工事協会関東支部で、電子交換訓練、１２～昭和５３年３月、野方電話局で、Ｃ４００クロスバ交換機の建設工事、フレーム形式変更、制御装置のつなぎ込み、各々の工事試験、４月～７月、志津電話局で、電子交換機のユニット増設の建設及び工事試験、工事試験の内容は、トランク試験、診断、コマンド、接続試験、付帯試験、雑装置試験、疑似呼試験等、広範囲によるものであつた。

しかし、ブラジルでは、電子交換機をまだ取り入れていませんが、将来、数年後には、デンパプラスでも、電子交換機の建設をやる事になると思いますので、今までの研修は大きな収穫であると共に、これからの電子交換機建設の技術習得に大きく役だつと思います。ブラジルでは現在、一番必要としているのは、クロスバ交換機の技術者なので、私が帰つたら、クロスバ交換機建設の仕事をするようになるので、できるだけ、今必要としている、技術をより完全にマスターしたいと考え、７月から、最後の研修として、京橋電話局で、より、一つ一つをていねいに、わずかの研修期間をいつしよりけんめい、頑張りたいと思います。この１年半の研修の間、国際協力事業団並びに日本通信建設の方々には公私共にいろいろとお世話になり感謝いたします。今後ブラジルに帰つてからは、いままでの研修の成果を充分に発揮する様にがんばるつもりです。

「技術研修を終えて」

第7回移住者子弟研修生　上西川原　猛

昨年の4月3日に念願であつた機械整備の整備の技術を勉強するため、国際協力事業団の研修生として日本に第一歩を踏みだしてから1年半の機械研修も終りに近かずき、長かつた様で大変短かく感じ、あっというまに過ぎさったような気がします。この18ヶ月振り返つて見るとつらかつた事、楽しかつた事などが思いだされます。私の最初の研修先は鹿児島県農業試験場でした。訪日してから数ヶ月というものは生活の不慣れ、研修が思り様にいかず焦り又相談する相手もなく思い悩んだものでした。試験場34ヘクタールの土地があり主に畑作物野菜、牧草などが主だつた。農業機械研修課のほうは機械操作、トラクター免許試験勉強を教えていて毎月県内の各試験場から2〜30名2週間の間研修生が来ていた。中には一般の農業者も来て日本の農業の色々な話を聞くのが一つの楽しみでした。当初からの研修目的であつた農業機械整備とトラクターの構造、エンジンの原理を基礎から始めました。学科の方は当初のころはほとんど漢字がわからず何回も聞きなおしたものだつた。最初の実地は先生と二人でトラクターを分解し作業中色々と説明してくれて一つの部品を分解するたびにその部品が何のやくめをもっているのか良く教えてくれた。初めのころはピストン、クランクシャフト、シリンダーライナー等を測定する時一回計るたびに寸法がちがい戸惑つたものだつた。当初のころは皆んなブラジルの事はあまり知らず、アマゾン川、コーヒー、カーニバルぐらいしか知識がなく話しているうちにきようみを持ち始め、テレビ、新聞等にブラジルの事が出るといろんな事を良く聞かれました。4ヶ月過ぎたころから他の実習生が多く来た時など先生の手伝いで農作業実習のときはトラクターを5台畑に持つて行くのでディスクプラウ、ディスクハロー、プラウ等の使い方を説明できるようになりました。トラクターの分解、組立まで一人でできるようになり、自分でも一応一般の修理は出きる様になりました。試験場には大型トラクターが20台あり耕運機は数十台あり用途に合わせて小型、大型色々な型があるのには感心します。一応トラクターの方は終り、電気溶接、ガス溶接、板金、塗装などを勉強しました。9ヶ月過ぎた時実地に勉強したくて先生に相談した所、近くの鹿児島県開発公社の修理工場に世話してくれました。そこはトラクター、ブルトーザー、一般の自動車等修理していて大変勉強になりました。冬の寒い日など部品を洗うのに手が冷たくて思うように手が動かない日もありました。残りの6ヶ月を自動車の整備を千葉県千葉トヨタ自動車で勉強しました。会社では新入社員に早期教育というのがあり最初の1ヶ月は毎日部品名称、自動車の構造、定期点検作業を教わり、2ヶ月目から実地に客の車を点検、車検整備を一人でするようになりました。初めのころはトラクターとちがい又部品名称などがちがうのには戸惑いました。排出ガス浄化装置がとくにむずかしかつた。日本では車とはただ走るものではなく一つの部屋という感じがします。整備で特に気を使つたのは車力整備で時には靴を脱いで作業した事もありました。2月に広島の東洋工業松田自動車を見学に行き工場の規模の大きさ、その設備は素晴らしいと思いました。ボデーの加工、エンジン組立てなど流れ作業で約1分に1台完成するという話だつた。国民体育大会、全国農村青少年技術交換大会にも参加させていただき貴重な体験をし良き社会勉強ができた事を嬉しく思います。私にとつてこの1年半の日本での研修生活は一生忘れられない良き思いでとなると同時に、皆様の希望にこたえるよう尚一層の努力をしてゆくつもりです。最後になりましたがこうした機会を与えて下さつた国際協力事業団の皆様方を初め各研修先の皆様方に心より御礼申し上げます。

「研修を終えて」

三宅正剛

僕の産れた国日本の土に足を踏み入れてから1年半本当に月日が立つのは早いものです。昨年の4月3日に日本につきました。春でしたので東京ではさくらの花がさいていました。産れて初めてさくらの花を見ました。春といつても僕みたいに年じゆう夏の所に住んでいるものは物すごく寒く感じました。日本での1日目の夜、移住センターでは本当に寒くて眠れませんでした。僕はこんな事で来年の冬は大丈夫かなと思いました。自分のすんでる所は年中27℃ぐらいです。とにかく自分の国といえども初めての所なので右も左もわからないと言う事で本当に心配と不安でいつぱいでした。そして、明日の朝、東京の本部にあいさつにむかいました。東京の市内を回つているうちにいろんな物を見かけました。それで自分はこれが東京かと思いました。おどろいた事は電車の朝のラッシュ。僕は皆んなどうして急いでいるのかなと思いました。僕の研修は長崎でした。ヨコハマの移住センターに3日行きました。皆んなと東京見学できなかつた事がざんねんでした。6日に東京を立ちまして長崎にむかいました。その時初めて新幹線にのりました。早くて気持ちが良かつた。東京から長崎まで約10時間、長崎駅についたのは5時でした。東京では晴れていたが長崎は雨だつた。歌のとおり雨が多い所だなと思いました。その日の朝は訓練校の入校式だつた。長崎の国際文化会館でおこなわれました。やく250人の学生が行きましたが、だれも知らない人ばかりでしたので、自分一人いるみたいでした。今から日本での生活が始まるのかと思いました。その生活が1年半かと思うとなんだか気が遠くなる気がしましたが、訓練校での1年の生活がうそみたいに早くすぎました。訓練校で一番困つた事はむずかしい漢字、教科書にかいてある漢字をよめなかつた事でした。でも訓練校の先生が僕だけ特別に漢字の勉強をおしえてくれました。お蔭さまで少し漢字がよめるようになりました。また友人の親切のおかげです。この事は一生忘れる事はないでしょう。

10月から夜間溶接に行きました。こうして毎日いそがしい生活をしてきました。つらかつた事は冬の寒さでした。僕にとつては初めての冬、そして産れて初めての雪を見ました。長崎では12月の中ごろでした。その時これが雪かと思いました。ブラジルにいる時、雪つてどんな物かなと思つていました。じつさいに見て本んとうにめずらしくてなりませんでした。初めての雪、そして初めて手にしもやけができました。こうして1年の生活を振り返つて見ると苦しかつた事、または楽しかつた事。一番の楽しみは合同研修会で皆んなと会う時でした。そして12月と1月初めてのクリスマスと正月をむかえました。紅白をちかくで見れた事はうれしい事でした。こうして訓練校での1年の生活が終りとなりました。3月15日ついに卒業式の日がきました。自分の心の中で思つていました。もう1年たつたのかと、皆んなとお別れかと思うとなんだか寂しくなる思いでした。入校式の時はだれも知らなかつたから気がらくでしたが卒業式の時は皆んなしつていたのでむねがドキドキしてなりませんでした。学校からは修了証書夜間溶接修了証書、合格証書、精勤賞、3級自動車ヂーゼルエンジン整備士技能検定合格証書。この1年間長崎県立高等職業訓練校で自動車整備を学びました。内容1．シャーシー、2．ガソリンエンジン、3．デイーゼルエンジン。電気装置材料、工具の取りあつかい。溶接アーク、ガス、製図、社会、法規、あとの半年は長崎県交通局でバスのエンジン分解組立てをしてエンジンおよびインエジエクションポンプを学びました。この半年間はまた訓練校とちがう生活をしてきました。多くの人たちと知り合つてきました。また日本の本当の生活を知る事ができたと思います。この日本での1年半、僕にとつて色々な面から見てもマイナスにはならなかつたと思います。ゆめで見ていた日本、本当によかつたと思います。この日本での生活はわすれられない良い思い出になる事でしょう。

ブラジルに帰つたら日本での生活をむだにしないように頑張つていこうと思います。この1年半をふり返ると色々の事を知り、多くの友も出きて、僕の青春の思い出になることでしよう。最後になりましたが僕の研修のため色々ごめんどうをみて下さいました事業団の皆様本当に1年半お世話になりまして有がとうございました。こんごともよろしくお願いします。

「技術研修を終えて」

第7回移住者子弟技術研修生　服部　元

あと残り数日となつた日本での技術研修を思い返れば、昭和２９年４月、家族と共に３歳の時ブラジルに渡つた僕は、日本での記憶はなく、ブラジルで教育され学校を卒業し、社会人となり日本の事と言えば、父母の話しと、学校で勉強したくらいでした。
父母から聞く日本は遠い昔の様に思え、また学校で勉強した日本は、工業が発達し世界で１、２を争う国であり、僕にとつて日本に対するイメージが複雑でした。
そんな時、国際協力事業団より日本への研修を聞いた時は、信じられない程どでした。
嬉しさの反面、恐らく全たく日本の社会を知らない僕が、日本に行つてやつてゆけるだろうかと不安でしたが、父母から会話と多少の読み書きを教えてもらつていたし、みんなから大丈夫だから日本へ行つて、しつかり勉強してきなさいと励まされ、昭和５２年４月３日、２３年ぶりに日本に帰つて来ました。
いや、帰つて来たと言うより、来たと言つたほうが正しいでしよう。

夜、８時３０分羽田に着き、まず最初に感じたのは寒さでした。
１年中暑く、四季を知らない僕は、身にしみる思いで耐えていました。
それも空しく、３日目に風邪をひき高熱と扁桃腺をはらしてしまい、それから１週間横浜で、入院していました。
その時は不安になり、帰りたい思いでしたが風邪も良くなり、みんなより１週間遅れてでしたが、研修先の熊本に着きました。

熊本での研修先は、熊本県信用農業協同組合連合会という所で、県下の農協が出資して作られた農協金融機関の本部でした。
１１の支所を持ち職員は約２百名、貯金、貸付、電算処理など７つの部と１４の課がありとても大きな団体でした。

そこで始まつた僕の研修は、最初は戸惑う事ばかり、社会的感覚が違い、とても理解に苦しむ事もたびたび有り、今から１年どうしようかと思つた事もありました。
しかし、この大きな組織の中では冷たく感じた人達も、個人的にはとても優しく、まごまごしている僕にいろいろと教え、心配してくれました。

それから１ケ月過ぎ、職場にも少し馴れていろいろとわかる様になりましたが、一難去つてまた一難、勉強の為与えられた本はみんな漢字で、それもほとんど専門用語、多少知つていた漢字もその時は何も役に立たず、悲しくなりました。
それからは、その本の内容を知る前に漢字の読み方を勉強しました。
毎日辞書を片手に、くる日もくる日も参考書とにらみ合い、また外国咬学校で日本語も教えている事を知り、毎日会社が終つた後、２時間勉強に通いました。
それから、だいぶ漢字も読めるようになり、漢字の勉強で遅れた分を取り返す為、全力で頑張りました。

まず始めに貸付課に行き、農家への貸付類利率、期間、保証人など貸付について勉強しました。
農業への貸付は、市町村が利率の３０％くらい補助する制度があり、とても他の企業から見れば有利な借金のようでした。
しかし、検査は厳しく貸付を決定、実行するまでは、県庁、各専門家でできた幹事会、基金協会などを通し、そして貸付と、とても大変な事がわかり、それだけ返済は確実だと思いました。

次に開発課という所に行き、そこでは農協の機械開発の勉強をしました。
現在、全国の金融機関はコンピューターで処理されており、農協もその機械化を目標とし県下およそ１５５農協のうち８０農協が、貯金、貸付、購買と機械化されており、これから先全農協機械化する予定だそうです。

熊本県の機械化された農協金融機関は、処理センターをこの熊本県信連に置き、各目Ａ５という

端末機を置き伝票をパンチしてそのデーターを、特殊なカセットに記憶させ信連に送り、コンピューターで処理しその結果を送り返すというオフライン方式で、その流れをくり返すのです。
今から先は、この流れを直接回線で結び処理を行なうというオンライン計画も進行中で、もうすでに５５年には、熊本県で２７農協がオンライン化する計画がたつているそうです。

次は、電算課に行き、ここにはコンピューターが２台据えてあり、今まで述べました、農協の処理と信連の毎日の業務処理を行なつています。

そこで最初に、オペレーターの仕ごとをやりマシンの使い方を覚え、次にプログラムの作成をしました。
機械は、日本電気のＮＥＡＣ２２００と言い、１台は４８ＫＢ、もう１台は３２ＫＢで、プログラムはコボルでコーディングされていました。機械の使い方は、何回かすれば覚えましたが、データーを処理する為、機械に作業をさせるとなると簡単には行きませんでした。
まず、福岡に１週間のコボル入門という研修に行き、コボル語でプログラムを作成する為の、初歩的な事を勉強してコーディングを始めました。

最初のプログラムは、マグネチックテープに保存されてあるデーターの中から、仮受金だけを引き抜き、貸借一覧表とトータルを打ち出すプログラムでした。
２本目は、従業員住所一覧表を作るプログラムで、紙テープに職員の住所、氏名、生年月日などをパンチしコンピューターに入力して一覧表を生年月日順にプリントするプログラムでした。
３本目は、紙テープの入力とチエック、ソート、プリントと３本のプログラムで一つの作業をするもので、最初に述べました２本のプログラムのようなものを、今度は３本続けて一度に行い１つの作業を処理するプログラムでした。
しかし、どれも一度ではうまくゆかず、何回も修正をし、少しの間違いでも機械は動いてくれず、何日も考えました。
後からコンピューターというものが分かり、面白くなつてくるほどでした。

最後に、今勉強しているのは、総合資金でこれは農林漁業金融公庫が間に立ち、国から農家へ貸付るもので、信連は公庫と一緒に間に入り、借入申込書の指導や農家の調査をするのです。
この貸付は金利も安く、長期の貸付なので農家の人も楽に返済出来、みんな成功し大きな仕事をしていました。

今まで述べた研修の他に、貯金、為替、推進、企画と勉強しました農家へも行き経営や生活、仕事と見て来ました。
日本の農家は現在いろいろな機械を使い仕事をしていますが、それだけに経営は大変なようでした。

この１年半の研修、最初は長く厳しい研修だと思えましたが、今思えばあつと言う間に過ぎてしまつたようです。
実際、僕が見た日本は学校で勉強した様に、工業が発達し世界の１、２を行く大きな素晴らしい国でした。
田舎の方に行けば静かで、父母が話してくれた昔の日本が残つているような気がしました。目的の研修以外に、今まで経験しなかつた、いろいろな日本人的考えや、むこうと違つた社会での生き方を知る事が出来た上、素晴らしい沢山の友達も出来、ほんとうにこの１年半の研修は苦しい事、悲しい事、嬉しい事といろいろとありましたが一生忘れる事の出来ない思い出となりました。
これから先、帰つてからもこの研修を役立て頑張つて行きたいと思います。

日本のみなさま、また事業団のみなさま、色々とお世話になりました。

「技術研修を終えて」

平田繁実

1年半と言う長いようで短い期間でした。この1年半を振り返つて見ると夢のようです。去年の4月羽田空港に着き、当時海外移住センターでの数日間は春だと言うのにまだはだ寒むかつた事や、夜にあの冷たいふとんに潜りこんでがまんして寝た事など本当に印象深く残つています。一冬をこの日本で過したわけですが、たまらなく寒いと言うほどではなかつたようですし、また生れて初めて雪を見た時の感動やその時の長崎の雪景色を見た時の印象は、一生忘れないでしよう。長崎方面は、私達4名で、ひと足先に研修先に行くようになり、他のグループがやつた東京見物は、できませんでした。4月6日の朝早く横浜の海外移住センターを出発しましたが、4名は長崎でばらばらになり、私は、事業団の方といつしよに左世保へむかつて行きました。私は長崎県立左世保高等職業訓練校で、電気工事士の勉強を1年間する事になりました。4月7日に入学式が行なわれ、生徒は全部で2百名いました。その中の26名が、電気工事科で、ほとんどが同年輩でしたので気がねなく話すことができました。そして私は、訓練校の寮に入る事になり、初めての寮生活だつたためか、寮生活がこんなにきびしいのだろうか、と少しびつくりしたのですが、同室の友や、先生方の援助もあつてしだいになれて来ました。今、思い出せばこんな事がありました。私がいつもの習慣で、知らぬまに土足で部屋の中に入り友達から注意された事や言葉の使い方で特に年輩の方や先生にたいしての言葉の使い方で、恥ずかしい思いをした事もありました。

私が訓練校で学んで来た事は電気工事士のための電気理論、応用、法規、設計施工、電気機械器、測定試験、機器の修理、などです。一番苦労した事といえば、電気理論と法規で最初の2ヶ月間は、電気理論、応用、法規だけでしたので、全くわからない所が沢山あり、それを理解するのにかなり時間を費しました。また技術用語やむずかしい漢字が沢山出てくるので辞書をひいたり、友達や先生方におそわつたりして理解していたのですが皆について行けるのだろうか心配で夜ねむれない事もありました、しかし、ここでくじけては、折角日本に来て技術を得ようと言う試みがめちやめちやになつてしまうと思い気合を入れてやり通す事ができました。これも先生方の援助と友人のはげましによるものが多いと思います。

ところで私の日常の生活についていいますととくに学校においての生活は、単調なものでした。しかし、6、7月ごろあまりの暑さで頭が痛やけてよく授業中いねむりした事もありました。また体育の時間だけは、意気ぬきとしてサッカー、バトミントン、バレーなどやつて楽しく過せ多くの友達と交流をさかんにする事ができて非常にうれしかつた事が思いだされます。毎朝のラジオ体操や電気工事科だけがとくにやらせられた、うでたてふせやマラソン（グランド内）も体力作りとして非常に役にたちました。夏休みが終ると実習に入り午前中の授業は、高圧の国家試験のための受験勉強もやりました。午後の授業は、実習をやりました。まず最初にならつた実技は、電線の被覆のむき取り方や線の接続など基本的なことでした。電線の接続から次々に新らしい実技を学んだわけですがこれが終ると応用段階的な実技も学びました。そのあと理論は終つて一日中実習になり修了まで訓練を受けました。まず最初の実践訓練は小さな木造の家の配線工事からやりました。3人で配線図を書き、材料を実習室からいろんな器具などといつしよに集めて、訓練にはいつたわけですがが、完成まで約三日かかりました。小さな家だつたので、簡単そうに見てたのですが意外に手間ばかりかかりました。それから電動機、電磁開閉器やタイマーを使つたエレベーター、ベルトコンベアー、自動ドアーその他のシーケンス制御を学び、訓練校での実習を無事に終える事ができ、修了証書、技能合格証書、電気工事士国家試験合格証書をもらつて卒業することができました。その後私は熊本で実地研修をする事になり、梅本電設で、

あとの半年間研修させていただくようになりました。従業員9名、小さな会社でしたが仕事におわれる毎日でした。私は、3月22日に入社しましたがちょうど忙しい時期で、仕事の帰りが7時8時をこすことが1週間ほどありました。会社まではバスで50分、さらに徒歩5分のところにあり市内とはいえ、結構時間がかかりました。私の仕事始めは公団住宅の屋内配管で二日間は「コンクリート建ての場合の天井部分」スラブ配管工事をしました。この工事は会社員で行なつたのですが、学校で実習を受けていなかつた私には、良い勉強になりました。本の上での勉強と実際、現場においての勉強とはかなり差があり、実習がいかに大切かが身にしみてよくわかりました。この半年をふりかえつても訓練校では、学びきれない、多くのことを、特に仕事においてはもちろんのこと、社会人として、あるいは親友として多くの人とつきあうことで、より広い知識とものの考えかたなど数え切れない程ど、この研修において学ぶことができ、うれしく思つています。とくに私のあとおしをし、またお世話いただいた事業団の職員の皆様方には感謝しております。

私は今度の研修の成果を活してブラジルにおいても頑張つていきたいと思つています。

日本での経験は忘れない思い出となると共に私の生涯の一方向を定めるのに非常に役立つと思つております。

「技術研修を終えて」

三井　昭

海の無い国から海の無い日本の山梨県に参りまして早くにも1年半が過ぎる時となりました。美しい日本の四季を味わう事が出来、季節ごとの特徴の良さを迎える事が出来ました。想像以上に体験しました日本の冬の寒かつたこと・・・今にも脳みそが凍つちまいそうな冷い風とともに飛んで来る〝吹雪〟が肌に刺すように痛いと言いますか、冷いと言いますか実につらく肌に感じました。又その裏に思いもよらぬ夏の季節がやつて来ました。気温が上がるとともに湿度も多くなんてむし熱いんでしよう！雪が降る国なので夏はもつと過ごしやすいと思つていましたが・・・熱かつたよう！でも今になつてこの1年半をふりかえつて見ると大変印象的な体験をしまして、なおこれからの想い出に一生残る事と存じます。僕も幼い頃からお父さんの後をついて畑に出て葡萄園の管理の手伝いをしました。そして農業高等学校を卒業して翌年ブラジル国のリオ・グランデ・ド・スル州における葡萄専門高等学校に入学しました。当高等学校を卒業して翌年パラグアイ国の農牧省国立果樹試験場に勤める事に成りました。もちろん試験場では葡萄栽培課の担当をして居ります。試験場でも生食用と醸造用ともいろいろ品種を栽培しておりますがこの6～7年前頃日本より、マスカット、ベーリA、オリンピヤ、そして巨峰などの品種が導入する事が出来ましてさつそく接木をして栽培の結果、非常に望みのある品種でして早くも全国に広がりました。やはりそこで僕も当品種について特徴栽培管理を専門的に学ぶ事がすぐにも必要であると感じました。それに当然技術を生かした進んだ本場の日本へ勉強に行く必要があり、さつそく国際協力事業団の研修生として希望を出す事にしました。昭和52年4月2日第7回子弟研修生として母国を後にして両親の故郷へ向う事が出来ました。日本での研修先として山梨県における果樹試験場で1年間、もちろん葡萄技術栽培の研修生としてお世話に成りました。

僕がパラグアイ国で先程ど申し上げましたように国立果試で葡萄栽培の担当をしてますが勤めて5～6年に成り従つて葡萄に対しては栽培に自分自身若干の経験が有りましたが山梨県の果樹試験場で専門研究員の先生方達の講義を受け、又は実習にのぞんでも栽培技術のすべてが違つたので非常にまよいました。むしろ違いがあつてこそあたりまえだとも考えられますがなつとくするまでが大変日数がかかりました。

試験場の先生方もいつもあたたかい気持で指導して頂き現在日本における奨励品種を根本的に、技術管理をも一緒に勉強させて下さいました。又栽培しております品種そのものが手がかかる品種と言いますか、まあ・・・実に各房ごとに何回も手をまわし出荷までには大変な管理です。つまり萌芽期から始めて、芽かき、新梢の誘引、小房を落し、摘房、摘粒、袋掛、除袋、傘掛、そして収穫の順になる事ですが品種によつてこれ以上の管理が必要のものもあります。

もちろんこれは露地栽培の場合ですが現在非常に普及しておりますハウス栽培の場合はもつとも違つた特徴管理が必要なのです。

そして去年の9月より12月まで4ケ月間果樹試験場の場長さんよりすいせんして頂き山梨県石和町の食品工業指導所で葡萄の醸造の研修をさせて頂きました。やはりこれもパラグアイを出る前の夢だつたのです。4ケ月間勝沼町のワインセンター（食品工業指導所）で赤と白のワインの仕込み法技術をしつかり先生方達が指導して下さいました。

甲州（品種）葡萄を原料として白ワインを作り、マスカット、ベーリAを原料にして赤ワインを作りいずれも品種又は品質的に高級な葡萄酒が作られております。日本で一般的に醸造されているワインは若干甘口で、香りと味が軽く女性の方やワイン入門者に好まれています。

そして残り6ケ月間は農家で研修を続ける事に成りました。やはり1年間果試と試験場とで色々と勉強に成りましたので、パラグアイへ帰つて国立

果試で色々応用して見たい事が学べました。でもいずれ僕も家へ帰つて親の後をやり続けなくてはなりませんので日本での果樹園農家で一つ経営的な事も学んで行きたいなと思つたのです。研修先は山梨県中巨摩郡白根町西野の功刀幹治様の家で6ヶ月間お世話に成りました。経営面積が2.5HC全部果樹園で実にりつぱな管理を時期的に適期ををまもり最高な技術を応用して、従つて品質的に好ましい果実を収獲する事が出来るのです。日本の果樹栽培者はつまり果実そのものにすべての管理をかけ市場に好まれる果物を出荷する。それを消費者が値段が高くても物がよければどんどん買うと、従つて栽培者は手間賃をかけても高く売れて、かぎられた面積で1年間の収入を楽に上げることは実にこれにこした事はないですものね。たとえばパラグアイの場合は品質よりも収量で勝負ですもの・・・では最後にこの1年半日本での研修期間見守つて下さつた国際協力事業団の職員の方々、そして山梨県の果樹試験場の職員の皆さん、ワインセンターの職員の皆さん、白根町西野の功刀様一家これら多くの人々の御協力御指導に心からあつくお礼を申し上げます。皆さんこの1年半本当に有難うございました。

「技術研修を終えて」

パラグアイ国イグアス移住地　佐藤　満

月日が立つのはほんとうに早いものです。昨年の4月、11年振りに故郷の地を踏んだ時は春とはいえまだ肌寒かつた。国際協力事業団の子弟研修生として自然の美しい日本に来て1年半という限られた研修期間が終ろうとしている。

農業に対する何の技術も知識もなかつた私は、高校を卒業してすぐ家に入つたので、あれこれと言われた通りのことしかできない、家の手伝い的存在になるのがいやでした。農業が好きな私に技術も知識もないのなら農業を経営する移住者の皆さんのために何か期待に応えられるものは・・・と思い農協経理、事業についての研修を選びました。

未来の日本の食料基地といわれる最も農業の盛んな岩手県で農協関係全般にわたつて研修してまいりました。前期の1年間は県農業協同組合講習所で高卒以上の県内各地から集つた37名の若者達と一緒に学びました。

当講習所では1年を通して午前も午後も講義だけで、たまには眠くてしようがない時もありました。

全般的基礎に関する学科目として、法学概論、民法、労働法、経済史、経済学、統計学、会計学、社会経済知識。農業に関する学科目として、農業経済学、経営学、災害補償制度、農業金融、農地制度、農産物流通論、消費経済。農協に関する学科目として、農協法及び関係法規、農協概論、経営論、経営分析、監査論、信用、購買、販売、畜産、共済各事業論、広報、営農指導、生活改善、簿記、事務管理、珠算、文書事務、職場倫理及び接遇、簿記演習、その他体育、夏季実習、以上36科目の外に、危険物、劇毒物、高圧ガス、16ミリ映写機操作の試験があり全部の試験に合格した時はとびあがる程うれしかつた。

珠算の方は3級までは何とかスムーズにパスして行つたが2級になると何か急にむずかしくなつた様でしたが、休み時間あるいは夜遅くまでの猛練習が5回目の検定試験で実証して念願の2級に合格し、今1級に挑戦しようと練習中です。

学科目が多いためだろうか各科目とも短期間にしかもスピーディーに進められて行つたので、理解に苦しんだ事もしばしばあつた。1年を通して最初から最後まで講義があつたのは、農協法、農協概論、簿記と珠算だけであとの科目は先生方の都合により前期と後期に分かれて講義していただきました。

ここでの生活は全寮制ですから朝のあいさつに始まつて、掃除、朝食、講義、昼食、講義、夕食、消灯と決つた時間をこなして一日が終ります。規則正しい生活のようでそうでもないのはやはり各々の心掛けしだいといつたところでしようか。自分の時間は食後の休みとか午後の講義の終りから夕食、夕食から夜消灯までと結構あつたので、これも使い方しだいと思い自習の時間にとりました。

8月の夏期実習は金ケ崎農協へ実務の研修に行き生れて初めて事務の机に向つて講習所で学んだ事を生かしながら1ケ月間の短い期間をがんばりました。ここで感じた事は、一人一人バラバラに生きていた個々人が共通の思想や目標を持つようになつてそれを相互の協力で達成しようとするとき組織ができ、そしてその組織が生成発展して行くと最初の思想や目標を達成するために組織自身を維持発展させねばならなくなるという協同のすばらしさと農協の事務処理がいかに合理化されているかです。実習が終つて再び講習所での講義が始まる。生徒全員が組織する自治会の役員に選ばれた私は、厚生部長と4人部屋の室長に命ぜられて後期の研修は大変だつた。

1年の短い期間に農協に関する一般知識を身につけ、今度は講習所で学んだ事を実践するために、住田町農協での研修が4月から始まりました。6月までは総務部で、文書、現金出納、残高試算表、特別会計等の作成の研修。7月に入つて各支所での研修に入る。主として窓口業務（貯金、税金等）を担当させてもらう。8月は総務部で20日間信用部で11日間、信用部では金融課に行き証書

貸付金、制度資金について学ぶ。9月に入つて初日に当農協の中間決算のため棚卸が行なわれた。農協講習所での簿記でも勉強して理論は知つていたが実際にやつてみたのは初めてである。ずいぶん時間がかかるものだと思つた。これでまた帳簿の残高と合つていなければいけないので正確さが要求される。営農部での研修は畜産課で帳標整理、集計。農産課では雑務的な仕事ではあつたが農家の経営を見学できる日もあつて自分にとつては良い勉強になつた。農協講習所での学習を充分に生かしての実務の研修もあと数日で終ろうとしている。複式簿記の原利を用いての伝標の記帳から始まり、貸借対照表、損益計算書、合計残高試算表等、経理の方は実の入つた研修ができた。

農協を組織するのは農民であるので、農民との間には密接に関連していなければならない。そのためには何と言つても経営管理組織の強化あるいは内部におけるけん制組織の強化に重要視することが大切だと思います。

この1年を振り返つて見ると、農協事業の研修はもちろんのこと、いろいろな面で知識を広めることができ、多くの友も得て、私にとつて一生忘れることができない青春の良き思い出として心に残ると思います。

農業国であるパラグアイに帰つて日本で学んだ事がすぐには効果がでないと思うが、協同組合、地域農業発展のために努力したいと思います。

最後になりましたが研修期間中親身になつて御指導いただきました岩手県農協講習所の諸先生方、金ケ崎町農協職員の皆さん、そして詳しく御指導して下さいました住田町農協の役職員の皆さんに、組合員の皆さんに心よりお礼申し上げます。またこのような機会を与えて下さつた国際協力事業団の皆様方にも心より感謝を致します。

「日本での技術研修が終って」

西田克己

アルゼンチンから日本に研修に来て、早1年がすぎようとしています。ほんとうに月日のたつのは早いものです。ちかいうちに、アルゼンチンへ帰えらなければなりませんが、早く帰えりたい気持が半分、まだ残りたい気持が半分、と言うところが今の正直な私の心境です。

神奈川での研修について

私が最初の1年、花栽培の研修をした所は、神奈川県では名の通つた五味田農園でした。
そこは秦野市寺山に有り秦野市の町が一目で見わたせ、日本一の山富士山が大きく見えるとても空気のきれいな静かな所です。
温室面積7百坪、それに露地にユリを栽培して居り、夏は、カーネーションが切れない時にユリが切れるようにしていました。
農園ではさし芽から花切り、出花までして居り、一から十までのひととおり研修する事が出来又他の農園も、秦野市の研究社の方々と共に、見学に行く事が出来、とてもよい勉強になりました。アルゼンチンと同じカーネーション栽培ではありますが、仕事のしかた、設備などがまつたくちがつていて、わかつていてやりにくいところがたくさんありました。
アルゼンチンでは今でも手で水掛をしている所が多く、100坪あたり掛るのに2～3時間もかかつていますが、日本では5～6分で終つています。自動灌水、これさえ取り入れたらどれだけ栽培方法がかわるかしれません。
中には自動かん水をしている方も有りました。でも、へいきんに水が掛けられないためやめてしまつた方もいます。もちろん私達一家もその中に入つて居ります。日本でのやり方ですと、ほぼへいきんにかかつています。なんとしても取り入れなければと思つてます。
農園に入つて、実地研修とは言え、5月のさいせいき、又6、7月の定植時期にはまいりました。朝4時から夜11時すぎることもすくなくありませんでした。一どだけですが前夜12時すぎてようやく休めた時の事。私が4時15分に仕事に出たのです。その時4時までに仕事を始めるように出れないでどうするかつとどなられた事もありました。それからというもの一日もねぼうしなくなりました。冬は寒くてもがまんできたけど、夏のあつさにはまいりました。温室内では40度をこえる事が多く、ボイラーで土じよう消毒する時には45～48度にもなるのでした。昼休みはほとんどゼロ。でもこういつたことひとつひとつのすべてが研修だと思い最初の1年間をすごしました。

神戸での研修について

秦野市で1年の研修が終り、のこり半年を神戸へ来たのは、関東と関西ではおなじカーネーションでも栽培のしかたがちがうと聞いていたからです。目で見ただけではわからず、実さいに農園に入り、いつしよに仕事をして始めてわかる、そんなところもたくさんあります。
藤田農園では、温室面積千坪、みな大リンのカーネーションです。五味田農園とちがつたところと言えば第一に、芽のせいりをけいさんしてしている事、春の花の切り方、土じよう消毒の時間のみじかいこと、定植後の水の掛方、1月は手で掛けている、肥料のやり方、数えるときりがないほどです。同じ花作りなのにこれほどちがつているとは、とても思えないほどです。
どんなにちがつた作り方でもいい花を栽培しようという気持はだれもが同じです。
大きな山ほどのぼる道はたくさんありますが頂上は一つしかない。花作りも同じだと思います。私も、まわり道か近道かいきどまりにならないように、たとえ後もどりしても、それがより頂上へ進むためなら、なやむ事なく後もどりし、いつかは頂上へたどりつくことを夢みがんばりたいと思います。
藤田農園での研修が終ろうとしている5日前9月25、26日と明石農業試験場に行き藤野先生や市橋先生のもとで、セツベンテストとアカザ検定を学びました。なにも知らない私に市橋先生は、

つきつきりで2日間、くわしく実さいにテストや検定をしながら教えて下さいました。おかげですこしではあるが、おやかぶを作るのに自信が出て来ました。この2日間は私にとつて1年半の研修をしたなかでも、さいこうのしゆうかくをえた2日間だつたと思います。

こうして研修を終ろうとしている今、これまでの1年半をふりかえつて見ると、なんだか仕事に始まり、仕事に終つたような気もします。

日本で学んだ事をそつくりそのまま、アルゼンチンにあてはめる事はむずかしいが身につけた技術をどのように応用し、生かすことができるかがこれからの、私自身の努力しだいだと思います。しかしいつかはきつと、研修の成果があらわれることを信じ、心を新たにし、この1年半の間あたたかく御指導下さつた方々、そしてこの技術研修をさせて下さつた国際協力事業団に深く感謝致します。たいへんありがとうございました。

昭和53年9月26日

「技術研修を終えて」

光田友宏

昨年の4月3日羽田に着きました。それから1年半の間に、国際協力事業団を訪れながら毎日の研修を行いました。1年間、千葉県の京成バラ園で実習をし、研究所の鈴木省三様に研修期間中とてもおせわになりましたことをかんしやしています。大量に花を生産して、外国からの苗も栽培していました。

日本は亜国とちがつて気候も大分ちがつているのでバラの栽培方法もちがつているのです。温室の中にはいろいろの設備がしてあり、室内の温度も自動的に調節出来るようになつています。

僕は労働者なみに働き始めました。自動的な湿度をどう調節するか、その方法やまたはそのせつびをするための資本の必要性を報告し始めました。

バラを大量に製品にするまでの技術と、薬品の数の多いのにおどろきました。

アルゼンチンを秋に出て、日本に春につきました。寮生活に入りまして、1年間をすごしました。研修の目的のバラ栽培に望み、生産部に申し込み仕事を始めました。

土の作り方、春になると新しい芽が出始めるので貧弱な枝をかりとりました。さらに新しい冬をこした芽のつき苗を植えるじゆんびをおこないます。そこで病害がある苗（コブのつくガンシュ病）ベト病、ウドンコ病をふせぎ、根にはネマトーダをちゆういし見わけをして植えました。

夏は気温は急激に上昇し、蒸散も多くなるので、鉢のかん水は十分に毎日おこないました。

花のさく前ですから、リン酸、カリ分の多いものを選んで鉢にやりました。たとえ鶏ふん、骨粉と油かすを植え土と混ぜ合わせます。できるだけはやく新芽を出すためです。

この5月には交配をおこなう時です。シュートがのびるにつれて竹などで支柱をたて芽が曲らないようにしておきます。幼虫が出やすいので薬を使います。カミキリやコガネムシが発生しやすいのです。僕も2百リッタータンクとどうふんとホースにノズリをつけしようどくえきをかけました。春には選定をおこないます。秋より深くきつてはいけないことを覚えました。外の成木は台風のために丈夫な支柱を立てておきました。夏は毎日のように散水におおわれ、梅雨の時は、湿度と気温の高さでウドンコ病が発生し、週に2回は薬品散布をおこないました。うどんこ病、黒点病はダイセンかベンレートをまぜ、アカダニにはエストクスとかニューマイトをつかつていました。この時は病気で葉を落さないように注意が必要である。

9月から芽つぎをおこないました。選びかたは花の終わつて次の芽がのびる直前の枝がよいとならいました。僕も実際におこなつてそのあとの成長をかんさつしました。この時に花もちや、色が春よりいいので、一番バラのたのしめるじきです。

病気はウドンコと気温が下がるので黒点病が出ます。冬には休眠にはいつて選定しはじめます。病虫害の消毒には石灰硫黄合剤をかけました。1月に入ればつぎ木、つぎ木用の穂ぎを用います。僕も実際におこないました。それを仮植しました。

京成バラ園で1年間、寮生活で全国から集まつた青年38人と、同居で住みました。

寮は会社の前で、朝昼と夜の三食を毎日寮でむかえました。冬はきびしく雪がいく日かふりましたので僕にとってははじめてのけいけんでした。生活的には、僕の考え、外国人として来て、回りの動きになれるのに、むずかしかったけどプラスになる所を見て毎日を実行しました。実習を、果す、目的に現在日本の競争、経済的に励む力を体で覚えるしかなかつたのです。今、1年間過ぎ去つたことを思うと、同じ日本人の血が入つていますけど、一生の間、疑問として残ると思いました。

3月中旬、愛知県に移りました。今度はラン栽培園で、6か月の間研修を学びました。友達も、1年間の作つた生活を千葉県におき、新しい経験に入りました。家庭の中での生活を毎日過し、研修を迎いました。

ランの管理に対し、種類を多くコレクターしているので、よく観察出きました。期間的に冬の終り

夏の初めとの間を研修しています。
この1年半の間、国に帰る時が来て、どうこの経験を実現すればいいのかとの議論が出て、日本の姿をアルゼンチンに育て上げる方法をいつか結論として出したいと述べます。

「技術研修を終えて」

第7期移住者子弟研修生　上野克之

春、夏、秋、冬、春、夏、秋と、青春の一部を過ごした日本、その18ヶ月は、南米で過ごす5年、あるいは10年分位にも当る様な貴重な研修でした。滞在期間もあとわずかとなつた今、お世話になつた人達に感謝の気持と、思い出を振り返りながら複雑な心境です。

南米で一応成人をむかえ、4月2日に技術研修生として帰国した私でしたが、17年ぶりの日本とはいつても、幼い頃移住した為、殆とんど記憶にはなく、日本語にも何事にも自信がなく不安でした。第一印象はやはり日本人の山と車の多い事でした。前期の1年間を長崎県大村市農協にて農産物流通機構に取組んできました。園芸農産部に席をおき、最初は品物に慣れる事、つまり各農産物の特徴などを知る事から始まり、集荷、選果、市場出荷、販売、精算、各個人口座振込といつたコースで、日本のシステムに合せて行ないました。研修が進むにつれて、農産物が安値になり、出荷者をはじめ、農協の頭を痛め、その対策として市場、マーケットを儲けるなど又、米の減反に対しハウス栽培を儲けたりで色々な面からポイントを得る事ができました。又半期を過ぎた頃、鹿児島県の養鶏専門農協へ短間研修に行く事ができ、すばらしい経営システムで設備など色々と学び南米でも一つ位は儲けたいものばかりでした。この様にすばらしい研修ができたのも回りの人が親切で協力的だつたからだと思います。そして後期の6ヶ月は、三重県にて主に鶏舎改善に力を入れ、日本全体を浅く広く見て参りました。現在いえる事は、自分に自信が付いた事と、この経験を糧に南米で精一杯励み、自分の道を歩む事です。

「日本での技術研修を終えて」

ボリビヤ国サンタクルス州サンフアン移住地
川上啓介

第7回子弟技術研修生として南米から日本へ帰国してもう早1年半の月日がたち去ろうとしている。

長かつたのだろうか短かかつたのだろうか何にせよこの1年半の月日は私の人生の一部にある、これがより美しい想い出として心の中に残ることであろう。それが未来に役だつことを信じて頑張りたいと思う。

昭和35年4月に南米ボリビヤ国に移住した。この時、私は3歳で家族と一緒に移つた。それから17年目の春昭和52年4月私は一人の子弟技術研修生として再度日本の土を踏み、踏みしめることが出来たのである。

私はこの子弟技術研修生を、緑の自然につつまれた南米で高校の時に学んだ畜産を専攻した。

私のこの技術研修は始めに長崎県畜産試験場であつた。この畜産試験場には6名の長崎県の色々な所から来た研修生と一緒に3か月ぐらいすごした後7月にはパラグアイから一名、韓国から一名長崎県の研修生としてこの畜産試験場に入つた。それに私と9名の研修生で気軽で楽しい寮生活を過すことが出来ました。

そしてこの研修では肉用牛を専攻した。この研修場ではおもに実習を行なつた。

実習では家畜の飼養管理はもちろんのこと、牛舎の掃除を初め、葉作、乾葉作り、サイレージ作、除角、削蹄、去勢、妊娠鑑定、人工授精などあらゆる実習を行ない出来るだけの畜産技術を学ぶことが出来ました。

それに講義があまりなかつたので自分なりに畜産の本を求めて色々と畜産について学ぶことも出来た。

又試験場での研修中は試験場内で行なわれた審査なども出来た。

それに長崎県で行なわれた海外事情教育高校生夏季研修会などにも出席することが出来た。それに場外研修としては長崎県吾妻町にある牛肉肥育団地で20日間民間実習を行なつた。ここでは乳牛の雄を去勢して肥育を行なつていた。それで肉牛の肥育のしかたなども学ぶことも出来た。

その他の場外研修は島根県で行なわれた全国和牛研究にも出席することも出来た。それに京都大学それに正月休を利用して沖縄県の畜産試験場、衛生試験場なども見学した。その他大村の養鶏試験場で1週間鶏について実習も行なつた。

このようにして1年間の長崎県畜産試験場の研修を無事終えた。

残りの6カ月の研修は日本でもつとも畜産のさかんな北海道へと足を運んだ。そして北海道でもつとも広い農林省十勝種畜牧場に入場した。

この牧場は国の牧場だけあつて広くて日本でもこんな広い牧場があつたのかと思つたのが私の牧場に対する第一印象であつた。

ここでは毎月1週間から10日間の講義をうけ私の畜産にかんする知識を一層広めてくれた。実習面ではやはり前と同じ肉用牛を専攻で行なつた。だが黒和種を飼つてる長崎県畜産試験場とは異つてアバーデイアンガス、ヘレフォード、シヤローレのような外来種が主だつたため別の体験が出来たことは私にとつては外来種にたいする知識を広めることも出来、それでボリビヤへもどつてから色々と役に立つと思つた。

この牧場の場外研修は毎月1～2回程度の場外見学が行なわれた。この見学では農林省日高種畜牧場を初め農林省新冠種畜牧場、畜産試験場、それに数々の肉用牛牧場それに道内の有名な酪農家、音更共進会、十勝総合共進会、札幌での全道共進会などを見学した。

それにここでの民間実習は10日間行なつた。この時の実習先は、菓室町の小川牧場でここは200頭近くのホルスタインの飼育、それにおもに外来種のアングス種を主体として行なわれていた。

その他、場外研修は広島県で行なわれた全国農村青少年技術交換大会にも参加出来た。

研修場で色々な見学そして色々なことを学ぶことが出来た。

このようにして私の1年半の日本での技術研修は終りを告げようとしている。
今では何も良き思い出として消えることなく強く心にのこることである。
本当に実にすばらしい、そして充実した1年半の研修だつたと思う。
この日本での研修で得た一つ一つの貴重な体験をこれからの人生で十二分に活かしこれからの人生に役立てるつもり。
そして1年半の研修期間、国際協力事業団をはじめ試験場、農林省の皆さんそれに民間実習でおせわになつた皆さん、これら多くの人々の御協力御指導によつて畜産にかんする基礎的な知識を身につけたことを心からお礼申しあげます。

「日本での技術研修を終えて」

第7回移住者子弟技術研修生　安里　マルセロ

僕は高校を卒業して父、兄といっしょに農業をやっています。ところが、ある日父からあなたはほかの事をやって見たらといわれましたので、養鶏をやる事にしました。それから2ケ月たつてみんな準備してヒナを買つて育すうしはじめた。所が産卵しはじめてから1週間たつて病気が発生して2、3日で全滅でした。それがとなり近所に伝染してから全滅でした。それから半年して、おかげさまで日本に研修に来る事が出来ました。

僕はボリビアから日本に技術研修にきてもう1年半たちます。本当に月日のたつものは早いです。ちかいうちにはボリビアに帰えらなければなりませんが、また日本に残りたいきもちもつくづく感じます。

僕が熊本県養鶏試験場についた時は山々がみどりいつぱいで日本の国の春が訪れておりました。

最初は8時半がヒナの管理、エサをやつたり、温度の調整をして、給温の基準としては最初の1週間は32℃前後、あるいは最初2日ほどは35℃くらいにして後5日くらいを32℃にし、その後1週間に2.8℃ずつ下げていきまして温度調節をしなければならない。

僕は熊本県養鶏試験場ではヒナから、成鶏、ブロイラー研修を受けまして、いろんな事に出合い、いろんな事を学ぶ事ができました。

ボリビアはこれから養鶏をやつてゆく人たちがふえる可能性がありますので、そのときには病気も多く発生するでしょう。だから一つ一つだいじにしています。たぶん国に帰えつてやくにたつと思います。

4月11日から沖縄県家畜衛生試験場で病気のことの研修を受けました。ちようど試験場に来て1週間して農家で脳脊髄炎という病気が発生し、じつさいに見る事ができました。これから国へ帰つて頑張りたいと思つています。

最後に関係者の皆様にお世話になりました事を、心から感謝すると共に、終生忘れがたき御高恩のお礼を申し上げます。

「日本での技術研修を終えて」

川代康夫

私は男兄弟５人の２男、北海道日高沙流郡門別町字厚賀で生まれ、昭和３１年１０月２日私が３歳の時一家揃つて、共和国ドミニカへ渡りました。

そのころ私はまだ物事の判断のつかないころだつたのでもちろん日本のことはなに一つおぼえていませんでした。

幼いころから日本の事を父母たちの話しを聞いて育つてきた私ですが、今現在の日本は父母たちのころの日本とはちがつています。

そして昨年４月より北海道の農林省十勝種畜牧場に研修生として入場、牧場全般を実習しました。

初めの日は冷たくきびしい寒さで、それにまだ雪がのこつていた。はじめの日は研修が長く感じましたが、でも今考えると、アツト言う間に過ぎてしまつた様な気がする１年半だつた。

十勝種畜牧場にきて、まずはじめに、おどろいた事は、土地の面積がなんと3,６００ヘクタール、内改良草地は1,５００ヘクタール、家畜は、乳牛１５０頭、農用馬２００頭、めん羊５００頭、肉用牛（５品種）あわせて1,０００頭、研修の内容は、酪農、肉牛、草地等に関する講義は３０％と実習は７０％、講師の先生がたは帯広畜産大学教授、十勝種畜牧場の職員、そのほか学識経験者のかたです。

初めの６ヶ月間の実習は１４５頭のヘレフォードと、日本短角牛の削蹄をやり、放牧監視、種牛の行動調査などいろいろやつたこともありました。また飼料課での実習は、草刈り、幹草上げ、石ひろいなど、中ではトラクターに乗つてデスクハローかけたり、テシダかきしたり、サイドレーキで幹草をあつめたり、この２ヶ月間の間に大変いい勉強になりました。

乳用雄子牛肥育での実習としては、２ヶ月間の間は毎日のように、子牛に人工乳と濃厚飼料給与ばかりやつていました。

またこの研修実習の中では、(1)肉用牛の体格審査(2)牛の見方(3)人工受精(4)トラクター運転(5)トラクター整備などもやりました。

和牛での実習としては、(1)糞処理(2)アングルたて(3)バラ線修理(4)子牛の体重測定などを１ヶ月間の研修実習でやりました。

乳牛経営技術課での実習としては、朝晩のヘリングボーン搾乳、分娩牛舎の糞処理、子牛に哺乳と濃厚飼料給与したり、それからパドックにいる育成牛、幹乳牛へイレージ給与、ここでは８ヶ月間実習をやりました。

そして１年の結果として研修所では修了証書、合格証書２級牛削蹄師認定書、大特と普通免許証、国際協力事業団の修了証書をもらいました。

少し自分の研修方法を反省してみて、私の研修はなんだか搾乳で始まり搾乳で終つた１年だが、でもこの時間は私にとつて一番いい勉強になつたと思う「牛という動物を体で知ることができた。」

中でも場外見学、北海道の別海にあるすばらしい新酪農村、それから日高種畜牧場、えりも牧場、ブリッダの酪農では西倉牧場、大谷牧場、町村牧場、ロングビッチ長浜牧場、山田牧場などすばらしい牛ばかりいる所を見学できた。

あと残りの３ヶ月間は音更町大牧北相牧場での実習では、朝晩の搾乳、中では牧草刈り、幹草上げ、デントコン刈り、２ＴＯＮのダンプでサイレージ運搬、牧草の種まき、肥料まき、ここでの実習としては自分で体得できたことが私にとつて一番いい勉強になつた。

最後に、今書いてきたことがちつぽけなことのように思うが、私としてはせいいつぱいこの１年半でえたしゆうかくなのです。

ごしんせつにお世話やらしどうをして下さつた国際協力事業団の職員の方々に心からお礼申し上げます。大変ありがとうございました。

北相牧場にて
９月１３日

日本の印象

「日本の印象」

市来清文

私達、第7回移住者子弟技術研修生は、4月3日、夜9時30分、予定時間より、約6時間ほど遅れて羽田空港に到着しました。
それから、約2カ月間、日本の生活を送つてきた訳ですが、ようやく、足が日本の地についた感じです。それで今回、日本の印象について、書く訳ですが、次の4点に別けて、書いてみたいと思います。
第1に、日本の風景、生活環境について
第2に、日本人の生活について
第3に、日本の工業製品について
第4に、日本の農業について
以上4点について、外国の中の日本人として、感じた事を、書いてみたいと思います。

第1に、日本の風景、環境について、風景は、実に美しいの一言につきると思います。海岸線、川辺り、山とどこに行つても、写真を撮りたいなあと、思うぐらい美しい。又、デパート、商店街にしても、装飾が実に良く考えてある。実にすばらしいと思う。道路にしても、実にきれいにしてあるし、舗装が、小さい道、田舎まで、進んでいる。又、危険な曲り角、丁字路等には、鏡が置いてあり、対向車が見える様に、運転手が、運転し易い様に、気が配つてある。すばらしい事だと思います。

第2に、生活について。
実に、インスタント製品が発達している。ラーメン、うどんはもちろん、焼きソバ、トーフ、しようが、焼肉のたれ等、例をあげればつきないほどたくさんあり実に便利に出来ている。私も、ブラジル国で自炊をやつた事がありますが、作るのに大変苦労しましたが、こんな日本の状態ならば、自炊でも苦にならず、楽しく、簡単にやつていけます。又、自動車、電話等の普及のすごさにもびつくりしました。各家庭に電話が有り、簡単に、日本到る所に、電話が出来るのには、びつくりしました。又、カラーテレビ、冷蔵庫等の普及率にも、おどろきました。

第3に、日本の工業製品について
日本の工業製品、特に電機製品をみると、実に精巧に、安く出来ている。私もカセットテープレコーターを1台買いましたが、性能の良さにはびつくりしました。いろんな事が出来ます。ステレオになるし、レコードプレーヤーから吹き込める。吹き込む場合でも、高低音の調節、自動音量、手動音量と別けられる等、一つの機械で、6つ、7つの事が出来るし、値段は安い、何でも見るたびに、買いたいなあ、と思います。車、カラーテレビ等の電機製品の輸出好調の原因もこんなところに有るのではないでしようか。誰でも値段が同じくらいなら、性能の良い製品を買うでしようから。日本の工業製品には、おどろく事ばかりですし、又、一方外国の中の日本人として、うれしく思います。

第4に、日本の農業について、見てみますと、大へん豊かな生活をしておられます。各農家に入つてみると、自家用車と仕事用の車と、二台はあり、又、トラクター、耕運機、コンバイン等機械の導入により、労力の省力化が進んでいる事には、目を見張るばかりです。住家は、大部分の人が、近代建築の家ですし、畑地の整備、農道の整備も大へん良く進んでいます。

以上、4つの点について、印象を書いてみましたが、どの分野を見ても、実にすばらしく、急成長を遂げていると思います。これも日本国民の汗の賜物かと思います。日本国民が、一生懸命頑張られたからだと思います。私達、外国の中の日本人は、実に、見習うべき事が多いと思いますし、日本も未開発国に対し、労力、資本、技術面において、援助してもらいたいと思います。そうする事で、外国の中の、日本国の評価も良くなるし、日本国の将来の発展にもつながるものと思います。私も、そうなる事を願つています。

「日本の印象」

土生 誠一

ぼくが日本に着いて、もう2ヶ月ちかくなります。さくらの花を見たとき、はじめて日本国に来たと思いました。日本に着いた時は、さむくてたまりませんでした。東京から仙台市まで来る途中、まだ雪がつもつていました。仙台は、東京より寒いので風邪をひいて、寝込んでしまいました。寒い日はまだ続いていますので、やはり暖かいブラジルの方が良いな、となんども思つたことがあります。食べ物については、ぼくはすききらいが無いのでべつに困つていませんが、あんまりあつさりし過ぎるので、油つこい物がほしくなり、週に1回ぐらい町に行つて食べてきますが、値段があんまり高いのでびつくりしました。物価が高いと聞いていたが想像以上でした。だが、既製品などはあんまり高くないし、とてもきれいでていさいがよいので、見た物、なんでも買いたくなるような気持ちになります。町に買い物に出かけまして、道路がせまくかんじました。だが自動車もそれなりに小さく作られており、やはり便利に出きているな、と思いました。日本の女性は、とてもきれいで目がくらくらすることも、たまたまあります。残念ながら、まだ寒いのでみんなロングスカートを着ているので・・・ぼくが日本に来て美しいな、と思つたのは景色です。いとこにつれて行つてもらい、3回ほど山登りをしましたが、上からの見晴らしがとてもすばらしかつた。暇さえあれば、どの山でも良いから行つて見たいな、と思つています。現在、寮生活をしていますが、なかなか楽しいものです。この寮に入つている人たちは、ぼくと同じぐらいの年齢なので、話も合うし、考えかたも似てるし、なんとかうまく行くようですが、このような団体生活は生まれて初めてなので、つらい事もありました。また、寮内の規定は、とても厳しいのですが、これこそ一番大事な勉強だと思つています。ぼくが今研修している場所は、試験場なので、設備がすごいのにはびつくりしました。温室は全部ガラスばりで、すべてが自動てきなので、人がやらなくていけないような仕事まで、きかいがやつてしまうのだから、ほんとうに便利です。ただし、これだけの設備を、個人で持つた場合、採算がとれるのかな、とよけいな心配などもしたこともあります。日本の農業は、小面積からかなりの利益をあげないといけないので、それには設備が整つていないとこまるので、たいへんな事だと思いました。左右目に入るのは、めずらしい物ばかりで、うつとりしたり、感心したり、うなずく事ばかりです。世間しらずのぼくにとつては、ほんとうに日本に来てよかつたと思つて喜んでいます。

「日本の印象」

樋口　寛

国際協力事業団主催の第7回移住者子弟技術研修生として来日する事が確定したという知らせを受けた時、本当だろうかとちょつと信じられなかつた。小さい時父母といつしよにブラジルへ移住して、おぼえている事といつたら、自分が3年間通つた小学校と親戚の顔ぐらいでした。常々一生の中1ペンは生れ故郷に行きたいと思いながら暮らす毎日だつたのです。それが旅行社へ行きいろんな書類ならびにパスポートを作る時点でやつと、本当に私は日本に行くんだなという実感がわいて来ました。それからは父母をはじめ友人知人から日本の事を色々とおしえてもらいました。けれども百聞は一見にしかずの諺どうり、こちらに来てはじめて聞いた事を実感としてうけとめています。着いて早々は何もかもめずらしく、たとえばパチンコ、いろんな自動販売機、通りの狭まさ、町の低さ、東京の地下大商店街、駅の混雑など色々ありましたが現在ではやはり物価、とくに食品が高価な事におどろいています。日本はさすがに世界の先進国だけあつて、住む人達も物質面では豊かな生活を営んでいるようだが精神面ではどうだろうか？言葉、態度、服装などにより以上な神経をつかつているような気がする。しかしよく動く人種だと思う。機転がきき、研究心がおおせいで、対抗心が強い。この精神で現在の日本を作つてきたのだとは思うが、私みたいな大陸そだちにはまだまだ理解できない事が多い。研修先では日本技術を学び、そして対外てきには日本人しか持たない精神文化のいい面も悪い面も学ぶのが私の目的だと思うから、この1年4ケ月の間色々な方面で知識をみにつけたいと思う。

「日本の印象」

移住者子弟技術研修生No.7　上野克之

私は4月3日にふるさと？日本に研修生として帰つて来た訳ですが羽田空港に着いた時、胸にジーンとくるものがあつた。

なにしろ4歳の頃南米に移住した為確かな記憶というものがなく、記憶している事といえば幼稚園で友達にかみついて怒られた事、伯父の田舎で初めて海へ行つた事、南米へ出発の日祖父が駅まで来てくれた事などをおぼろげに覚えてる位ですから、今一度皆に会いたい気持でいつぱいでした。そして現在気持が実現し、幼い頃の友達、伯父、祖父達と会える事ができましたが、なんとあんなに若かつた伯父が祖父が腰は曲がつてしまい、白髪になり、顔はシワだらけに変つてるじやありませんか。ビックリというより、涙がボロッとこぼれてしまいました。又、親戚の方々も私の大きくなつた姿に涙を流し、お互いに17年目の涙の対面でした。

そして4月11日より研修先である大村市農協に落着いた訳ですが、ビックリするのは通行がまるつきり逆だし、回りは全部日本人、目と目があえば頭を下げる状態で自分が外国人の様でした。1週間名古屋見学に行つてきましたが、ビルのジャングルという感じでいい天気なのに空はスモッグで曇つている、話で聞く日本晴れとはどの様な空をいうのだろうか、でもさすが人口がオーバしている国、人、車の多い事、私は人にもまれくたくたでした。人の群れはデパート、ホームに吸い込まれる様に入つて行くのになぜ国鉄は赤字なのだろう。

町では自動販売機、自動キップ売場、両替など機械が活躍し、何でも便利にできているし、国民も他国から比べれば生活が一定している様だ。

最初はこんな国には住みたくない気持でしたが〝住めば都〟という様に2ケ月でずいぶんなれ、農協でも職員の皆にとけこめる様になりました。あとは研修した事を生かし発展の為に努力するつもりです。又日本での事は生涯忘れる事の無い思い出となる事だろう。

「日本の印象」

第7回移住者子弟研修生　上西川原　猛

２０年前日本よりブラジルに移住する時の日本と、今見る日本とは夢のように変つている。こんなにも日本が発展しているとは思つてもいなかつた。日本の経済の力と工業力には又一段とおどろかされるばかりです。日本の事はブラジルでも、新聞、ラジオ、テレビ等で時々見る機会があり多少なり知つているつもりでしたが今考えると一部分にすぎなかつたと思います。今私はほんとうに日本に来ているのだろうか、夢ではないだろうかと信じられない気持でした。思いだすのは２０年前両親につれられて海外移住者として神戸に行つた時のことです。自分達は何もわからず、ただ船にのるのが楽しかつた事です。２０年ぶりに日本に帰つてこれたことは何よりもうれしいことです。これもひとえに国際協力事業団の方々のおかげであり心より感謝しております。羽田空港に着いた時、何もわからぬ私達のためにお迎えをいただき東京見物までさしていただいてうれしく思いました。事業団本部に行つた時日本のビルの高いのにはおどろきました。初めて４５階まで上つたので、何だかゆれてる感じでした。日本は地震や台風の多い国だと聞いていましたが、高いビルが立並んでいるのには感心しました。これも進んだ日本の技術の力だと思つています。

僕もこんなにも技術の進んだ日本で好きな機械の勉強をさしていただけるのがうれしい気持で一ぱいです。横浜の移住センターでの事前研修も終り４月１１日センターをでて熊本にむかい翌日熊本に着きました。熊本では職員の方に、熊本城や水前寺公園などを案内してもらつて嬉しく思いました。翌日僕の研修先である、鹿児島県農業試験場大隅支場に着きました。故郷を見て見たくて先生方に相談したら、行つてきなさいと言われたので支部の了解を受け、飛び石連休を利用し郷里へ行き以前住んでいた所はどう変つているか、おじさんや、おばさんは、どうしているだろうかと思い逢いにいきました。叔母さん達も元気で、逢えた事をとても喜こんでくれました。２０年ぶりに見る故郷はあまりにも変りさい月の長さをあらためて感じました。

以前住んでいた人々はほとんどいなく今住んでいる人々は知らない人が多いでした。

私達が以前住んで居た所は今は家はなくただ牧草が生え茂つていました。おさないころよく喧嘩したり遊んだ丘も今は変つて杉林になつていました。

３年勉強した学校は５年前閉鎖して今は部落の公民館になつていた。

何んだか淋しい気がしました。運動場の横に立つていた開拓の碑を見た時、何だか自分が忘れた物を見つけたような嬉しさを感じました。２０年前はなかつた道路もよくなつていて全部舗装されていました。各家にも電話やテレビ、自家用車があり、当時の事を考えるとよくこれまで発展したものだと感心します。嬉しかつたのは同級生達に逢えた事でした。友達も最初会つた時はびつくりして本当に帰つてきたのか夢じやないのかと喜こんでくれた。ブラジルの旅というテレビ番組を見ては他の同級生達と僕達の事を噂していたそうです。色々と学校の事や同級生の事、移住した時の事などで話しがはずみました。

いくら変つても年月の過るのに関係なく故郷の霧島山は変りなく美しくそびえていました。

国際協力事業団第７回移住者子弟研修生としてはずかしくないよう、又先輩達に負けないように時間の許すかぎり努力して行きたいと思つています。

「ぼくの日本のかんそう」

三宅正剛

ぼくは、日本にきてから2日しかたつていないのでまだはつきりしたことはわかりませんけど日本にきてまずかんじたことは人が多いことですね。とくに羽田空港なんか人が多いつてかんじがしました。それに東京はものすごい人ですね。とくに朝のでんしやなんかのものすごい人にはおどろきました。それから車が多いことですね。そのわりに交通事故が少ないことにはかんしんしました。日本の人は、うんてんがじようずです。とくにタクシーのうんてんしゆなんかじようずですね。それにみんな交通のきそくをまもつていますから交通事故がすくなくてすむのだと思つています。ブラジルも日本のように交通事故が少なかつたらいいなーと思つています。それに日本は交通めんがはつたつしていてどこにいくにもべんりになつています。

日本は山が多くてとてもけしきがよいところです。とくに長崎なんかどこに行つても山ばかりです。だから家も山の上にたつているのにはおどろきました。よくあんな高いところに家をよくつくつたなーとかんしんしました。日本はしよくりようは高いくにだけどなんでもありますからかねさえもつていればすみよいところだと思います。デパートにいつてもなにひとつふちゆうしないで買物ができます。さかなやさんにいつても手ひとつよごさないでかつてこれますからずいぶんべんりになつています。日本はとつても気こうがよいところです。病気もあんまりしませんし、ぼくは日本にきてからまだ病気はしていません。せんしゆう風しんにかかつて2、3日ねましたけどそのほかの病気はしていません。ブラジルにいるときはいつもかぜにかかつていました。ブラジルでぼくのすんでいるところは1年中あついところですからどうしても体がよわります。ぼくが日本にきて一ばんこまつているのは漢字の書き読みができないことです。漢字が読めないから学科のほうがにがてです。それからバスにものれません。どれにのつていいのかわかりませんから、でもこの1年がんばつて書き読みができるようになろうと思つています。

「日本の印象」

第7回移住者子弟研修生　服部　元

私が母国日本に着いて一番感じた事はやはり、日本人とは優秀な民族だと思つた事でした。

南米ブラジルで育つた私に父母はいつも言つていました。日本人とは規則を正しく守り礼儀正しく行儀よく生きる事だと、ブラジルに居た時はその意味がはつきりと分かりませんでしたが、日本に来てほんとうにそうだと感じました。ブラジルではまだそうゆう事を皆んなが教育していないためよくその意味が分からなかつたんだと思います。また父母もそうゆう国だと知つて私たち子どもにはいつもそのような事を言つていたんでしょう。

日本国際空港羽田に着いたのは夜でしたので東京の町もあの有名な富士山も見る事ができませんでした。メキサコ、バンクーバと日本人のたくさんいる空港を通つて来た私はいきなり羽田空港に入つた時はまだ日本に来たという感じはあまりわきませんでした。横浜に着いた翌日、海外移住センターから見た横浜の町が日本の町を見る最初の日でした。その時にすぐ感じました。なんてきれいな町なんだろうと道には紙くず一つ落ちていませんでした。その時はよく掃除の行きとどいている町だと思いましたがさつぱり掃除するような人の気配はなくおかしいなと思うまま東京の新宿を通つて行きましたがやはり東京の町も新宿の駅もきれいにしていました。その意味が分かつたのは新宿駅のあの3分おきに出入りする電車を乗り降りする身動きもできないぐらいの人々の一人一人が紙くずは紙くず入れにたばこの吸い殻は吸い殻入れにと皆んなちやんと入れていました。その時にそれで日本の町どこもきれいなんだなとわかり、人、一人一人が規則を守ると言う事がどんなに大切で町をきれいにするものかがわかりました。私もそれからはかならず紙くず入れ吸殻入れにとすてています。

東京に行つて国会議事堂を見、皇居と二重橋を見てやつと私は日本に来たんだと感じてきました。ここが父や母が話してくれた私が生れた東京なんだと思い、小さい時何にも覚えぬままブラジルに行つた私にいつも東京の話しをしてくれていた父や母の話しを思い出しなつかしく思いました。それにしても東京は私が想像していた町よりすごく大きくてきれいなすばらしい町でした。

しかし、熊本に来てからも感じた事ですが日本は（とくに東京は）一つの機械のように思えます。新宿駅の1分のちがいもない3分おきの電車のように一人一人が時間で確実に動いているようです。どうしたら時間を有効に使い、能率が上るかと言う事を皆んな研究され、それでむだのない時間の上で行動しています。機械はセットし活動させれば何んにも言わなくても正常に活動して行きます。それと同じようにセットされた人生を確実に進んで行つているように思えます。

一流会社に入るため、今はもう中学生から塾に行き、いい高校に入り、大学も一流のを卒業してなるたけ一流会社に就職し、会社に入つたら、その会社で一生を終るというように子どものころから自分の行く道はきまつているようにも思います。でも現在の日本の生活水準はものすごく高いと思いました。戦後の日本と違い今は皆んなよい生活をしています。どんなに奥地に行つてもテレビがあり、また必ずどの家庭でもすばらしい乗用車があります。電話もまたびつくりするほどどこにでも置いてあります。それだけコミュニケーションが早くはつきりとできる事でありそれもまた国の発展に大きく作用する事だと思います。

そのような面からも色々な面から見てもまだブラジルはこれからの国であり厳しい争いはまだなく実力をつけ、努力さえすれば大きな会社を持つ事もまた大きな土地を持ち広い牧場も大きな希望と夢を実現できる可能性はじゆうぶんにあります。でもまだ国の力も弱く能力者も少くないので色々と苦難があり、なかなか夢を実現する事はむずかしいですが私はこの1年半いつしようけんめいがんばつて向うではえられない事をできるだけたくさん覚えて帰り大活躍したいと思います。

「日本の印象」

荒 槇 文 彦

日本に来て早くも2ヶ月になる訳であるが、最近になつてやつと精神的に落ち着いて来た感じがする。しかし日本の生活に慣れて来ると、この生活が当り前の様な気持になつて来る。だから最初の1ヶ月の間が一番向こうと日本の違いがよく見えた。その最初の1ヶ月間の日本の印象的だつた事がらは大たい次の様な事であつた。

会社の出勤、退社時の駅の人ごみ、こんなにも人がいたものだろうか、と思わされる各駅での乗る人、降りる人の数で大たいその地区の状況が判断出来る。一たん電車に乗り込んでも、車内の雰囲気が向こうとは全く違う、皆だまつて各自本を取り出し読書に耽ける、たまに2、3人で話しをしている女性グループを見かけるだけである。会話が少ないのも、お互いに他人に迷惑をかけない為であろう、そう言つた点では人々が非常に親切だ、駅の人ごみの中でも歩いていてカバン等が人にあたると、「どうも失礼致しました」、と詫びる。この辺も向こうで聞いていた「近頃の日本人は他人の事などかまわない非常にツメタイ」との違いだろう。しかしあまり会話の少ないのは淋しい気がする。

駅の入口、出口で宣伝マッチとか、広告ビラ等をくばつているのも良く見かける。

木造建築の家の多いのも一つの特徴だろう。庭園と良く調和して美しい、しかし火災が多いのは木造建築が多い故にだろう。

車の数が多いのも目立つが、交通規則が良く守られている為この点ではあまりトラブルも思つたより少ない様である。規則が良く守られていると言う事で今一つ興味深いのは、普段はひどく忙しそうに歩いている人たちも、街角に来て信号が赤だと車が通つていなくても信号が青になる迄ずつと待つているこれは向こうでは想像もつかない事である。

金曜日の夜から土、日と夜の駅に行くと酔つた人が非常に多い、中には駅のベンチで居眠りしている人もいる。「電車の中で眠つて終着駅迄行つてしまつた」、と言う体験談は良く耳にする事だ。日常の人間関係が温和なムードの中で行なわれるのも、裏でこう言つた「飲んでストレスを解消しよう」、と言うある種の犠牲心があるからではないだろうか。その裏がどうであるにしろ、その場で爆発さない、と言う忍耐力は外人にはマネの出来ない事であろう。

第18回 全国農村青少年技術大会に参加して

開催期日　昭和５３年８月２日(水)～４日(金)　（２泊３日）

主 会 場　広島県立西条農業高等学校
（広島県東広島市）

「第１８回全国農村青少年技術交換大会に参加して」

三井　昭

昭和５３年８月２日～４日に行われた広島県での第１８回全国農村青少年技術交換大会に参加しまして大変嬉しく思つています。
さて今回の大会に参加しまして僕の個人的な判断を書かせて頂きます。
実はこの〝農村技術大会〟を文字通りあまりにも期待しすぎていたかもしれませんが結果としてなんとなく不充分な収穫でしたと思います。
１日目、２日目、３日目と細かく時間的に追へました活動をデータに出しませんがたとえ僕の場合は果樹栽培について興味もつておりましたので山梨県、青森県、静岡県そして岡山県などの代表者として現在日本における果樹栽培のすべての問題、又は試験を行われた発表に出席しましたがそれぞれの成績がはつきりしなく具体的な結果がありませんでしたので非常に残念だつたと思つています。
翌日広島県における世羅郡世羅町の世羅農業協同組合をたずねまして世羅幸水農園を視察させて下さいました。
当組会長さんより大変細かく栽培法について説明して頂きました。
現在日本の市場における梨の販売問題と、又は将来の望みをテーマにしてお話しをして下さいまして、その後選果場と幸水園を案内して頂きました。
僕にとつてはこの梨園の視察が一番良かつたと思つてます。
ではこの農村技術と言う意味を無視して別な面での感想を申し上げると非常に大事な物が有ります。
それはやはりこの大会に参加出来ましたおかげで日本全国に友達が広がる事が出来ました。又は日本的な民謡踊りとかミコシかつぎがとても良かつたです。僕達にとつてはその日本独特の物を見たり聞いたりする事が大変あつく印象に残る想い出と存じます。まあ結果としてこの大会はよかつたですが少しよくを言はせて頂けばとの事ですがせつかく広島まで行かれたのでどうして大阪による予定がなかつたんでしようかと残念に思つてますが・・・では最後に来年青森県で行なわれる全国農村青少年交換大会にも参加して頂きたいと思います。

「第１８回全国農村青少年技術交換大会に参加して」

光田友宏

去る、８月２日から４日広島でおこなわれ参加しました。１日の夕方西条駅につき、第７回の研修生、全員が集まり今度の計画や、一人一人の意見をのべました。その旅館を出てあくる日、県立西条農業高等学校体育館にとうちやくしました。始めに目についたのは、参加者名簿の内容に西ドイツ、オランダと４Ｈクラブ、ブラジルからも来ていたことです。

８月の広島は乾燥し温かい日をむかえました。それでも若い人の中でスケジュールをかねて、楽しい１日をあけました。８月３日は、農業視察のバススクールで広島の周辺を案内してくれました。コースは安仕、高陽、広島市となりました。安仕町久地、三国では、花木団地の中を見学して、土地に合う砂壌土の、変調に対し、進んだ研究をしているのに感心しました。昼食は安仕町の婦人の手作り食事によばれて楽しくいただきました。高陽町では、養鶏団地でその働きを観察しました。そのつぎ平和公園を原爆ドームから歩き平和記念資料館へ見学をさせてもらいました。体育館にもどり３日は全員解散しました。

４日には、農業技術競技をおこない花きコースに入りさんかしました。それからバスで移動し、東広島市、中央公民館で閉会式をおこない、閉会式につづき、本年の全国農村青少年技術交換大会を解散しました。

この集まりは僕に対し、友達を作る、全国の働く者同志の話による経験を聞くことや、外国人としての、経験を身に付け合いながら生活することがもつともよかつたと思います。技術をまなぶ事に対し短い期間を利用したのが、残念でなかつたことに気づきました。千人の農業青年の参集に対し、交換大会としての目的は僕にはプラスでした。広島をいつも思いにのこします。

「第１８回全国農村青少年技術交換大会に参加して」

第７期研修生　上野克之

今大会に参加して視野が少しでも広まつた事をはじめ、海外からの参加者にオランダ人、ドイツ人がいた事など一つの思い出として残りました。

日本晴を通り過ぎるような暑さの中で開会式が行なわれ、第１日目より少々疲れぎみでした。初日は各グループに別れまず自己紹介の時僕達のグループには陰気くさい人が多くその上他のグループに位べて女性が少なかつた為かしらけたムードで始まつた。こういう場面は南米ではあまり感じられない事である。そして午後強い日射の中で各代表者の発表会が行なわれ、くふうをこらした自作の機械、乾燥室の設計図その他色々発表された。皆同時に行つたものだから僕はとりあえず畜産部の方へ回つた。その中で鶏舎改善は僕にとつてまあまあの収穫であつた。ポイントは３日間位留守にしても安全である事だつた。そして楽しみの夜のアトラクションでは、初日にふさわしくグループサウンズが登場した。１曲２曲と歌が流れだし皆じつと聞いているだけだつた。３曲目に入つた時オランダ人、ドイツ人がガマンできなくなつたのだろう舞台前に飛び出し踊り始め、次々と若者が続いて大きく盛り上がつた。さすがに雰囲気づくりがうまい彼等には感心した。終つた時は皆汗ダクで、髪はほこりでまつ白になつてなんとなくアベックもできてた様子だつた。僕は、その辺の若者とビールを飲みながら夜ふけまで歌つたり話したりで過した。翌日はバスで、ぶどう園、畜産試験場などの見学であつたが、その日は台風の影響であいにく雨となり、時間の都合もあつてじつくり見学できず残念だつた。会場に帰つてみるとキャンプテントはずぶぬれで使えなくなつており又、移動するといつたハプニングもおこり、学生時代のキャンプを思い出して、印象に残つた。夕食をすませいよいよ最後の夜となつてしまつた。何人かの友達もできてキャンプファイヤーを囲みまたいつか会える日を願つてさかずきをかわしあつた。この様にして３日間が過ぎた訳だが一番心にしみた事が一つだけある。大会のフィナーレで聞いた三次大鼓である。いかにも若者の心をあらわすかのように、時には静かにまたある時ははげしく僕の胸深くとどろいた。この大鼓の音は忘れる事はないだろう。最後にグループの旗にサインを残し、広島の青年達に送られ別れた。若いという事はすばらしい財産なんだなあと帰つてから思つた研修でした。

「技術交換大会に参加して」

第７回移住者子弟技術研修生　　安　里　マルセロ

僕は８月２日より行なわれた第１８回全国農村青少年技術交換大会に参加させてもらいました。所は広島県農業大学で４日間でした。
この大会の目的はこれから日本農業の中心となる新しい農業者達がプロジェクト発表や現地訪問などをして農家の人々の意見を聞き、将来日本農業のため希望をもたらすことである。参加者は８００人でした。
同日１時より開会式が行なわれ日本全国から集まりいろいろ言葉が入り乱れ、少しややこしくなるつて思つたけどそうでもない初対面でありながら、みんなうまくうちとけあつているようだつた。次の日から各グループに分かれ発表が行なわれた。みんなそれぞれ真剣に考え、自分が研究した事、又はこれから自分がしようとしている事などを発表していき着々と進められていつた。
３日目は地方訪問で県の農家や農協で講習受けたり聞いたりして帰つた。
この合同研修は３泊４日であつたがうそのように時間がすぎました。この長いようで短い時間の中でいろんな事を感じさせられました。今回の参加者は指導者を除いて、みんな２０歳前後であるのに良くやつていました。
僕は日本の若者に負けないように頑張らなくてはと、つくづく感じました。本当にこの合同研修に参加できた事をうれしく思つています。

合同研修会に参加して

開催期日	昭和５２年１０月１日(土)～３日(月)	
研修場所	青森市、秋田県大潟村（八郎潟） 追分、男鹿半島	
日　　程	１０月２日(日)	国民体育大会開会式参観
	１０月３日(月)	八郎潟干拓地 大型リンゴ農園 男鹿半島見学

「合同研修会に参加して」

市来清文

１０月１日、９時２５分北国青森駅に到着、何か駅構内が警察により見張られ、乗客が少ないと思つたら、丁度天皇陛下が特別列車で青森県りんご試験場に御視察の為出発される時刻だつたのだ。私達４人が駅外に出てからすぐに、駅に到着された。思いがけない出来事でした。日本国民の象徴である天皇陛下を、目の前に見れるとは思つてもみませんでした。そして、１２時３０分、駅前に全員集合した。半年ぶりに全員に会うが、全員元気そうで、日本慣れした顔だつた。全員事故なく、半年ぶりに会えた事をうれしく思う。それから、宿泊地、八甲田温泉へ直行した。あの映画でも有名になつた、八甲田雪中行軍、銅像を遠くから見つめ通つたが、あの場面が頭に浮んで来る。八甲田山系を見つめると実に美しく、雄大であり、自然は強い事を知る。何もなかつた様にずつしり落ち着いている。温泉は久しぶりだ。８年ぶりだろう。このにおいがなんとも言えない。又、夜間の冷え込みにはびつくりした。部屋の中で、７度ｃぐらいに下がつただろう。私の研修地、熊本県では、１５度ｃくらいだろう。日本の北国青森県に来たなあと感じました。

１０月２日、日曜日、絶好の国体開会式日和秋晴れ、８時３０分宿泊地を出発、紅葉を見つめながら、９時３０分会場に着く。すぐに入場しました。会場、その周囲も実に美しい、道路側には、サルビア、マリーゴールド、つげ等が定植してあり、色彩が良く考えてありました。１０時より、場内レクレエーションが始まり、青森県内の婦人会、少年団、観光協会が一団となり、いろんな美しい演技を見せてくれました。その後、私達ブラジルからの応援団が場内に紹介され、暖かい拍手を受けました。１２時３０分、天皇陛下が御着席になり、役員、選手団の入場開始、ブラジルの役員、選手団が先頭に始まりました。１３時２０分、開会宣言により、開会になり、１３時５７分の閉会式通告まで、天皇陛下、文部大臣、大会会長等の挨拶がありました。最後の集団演技は、ねぶた祭りが中心でしたが、実に見事でした。今までにあのような美しい演技は、見た事がありませんでした。そして、１５時に退場し次の研修地、秋田県に、１７時すぎの列車で向かいました。２１時、五城目町の宿泊地に到着。

１０月３日、月曜日、快晴、少し寒い感じですがすがしい朝、８時３０分、宿泊地を出発する。最初に、秋田県立農業短期大学を見学した。学長の説明によると、本校の目的は、実践的農業経営者及び、農業技術者を育成する事、本校の特色として、一つ、講義と実験実習を一体化し、実践的学習を重点にしている事、二つ、学生を全寮生として、教師と学生の交流を密にして、農村社会における、連帯意識の向上をはかる事、三つに、農家に、公開講座、研修等を実施し、開かれた大学である事だそうです。次に秋田県農業試験場大潟支場を見学し、試験場の仕事、研究内容、大潟村の今までのいきさつ、現状について、説明を支場長より受けました。国営事業として、やり始めた干拓事業ですが、未だいろんな問題を持つていますが、現状では、入植者らは、相当高い生活状態にあるとの事でした。将来も、国、県等の援助を受け、伸びていくものと思います。大潟村で昼食をして国定公園男鹿半島観光へ出発しました。わずかな時間でしたが、寒風山、八望台等を回りブラジルと比べると、風景の良さをまざまざと見せつけられた感じでした。絶景でした。

５時に秋田駅で解散となりましたが、２泊３日の合同研修、大へん有意義だつたと思います。事業団の本部、又地方支部の人達の世話でいろいろ勉強させてもらいましたこの研修は、私達研修生一同、一生の思い出として、心の奥に、深く、刻み込まれたものと思います。大へん有難う御座居ました。

「合同研修会に参加して」

荒 槇 文 彦

合同研修会で僕達第７期生が再会出来たのは日本に来て以来約半年経つた１０月１日であつた。

６ケ月間の内に各々が体験したさまざまな出来事、それは苦しい事あり、楽しい事もあつた。勉強と並行して見、聞き、体で体験した日本社会に付いて話し合つたが、青森の景色はあまりに美しく、今迄の悪い思い出は全て忘れさせてくれ、同時に今後への希望をも持たせてくれるかの様だつた。眼前に広がる美しい大自然に見とれている内に八甲田の夜はあまりにも早く訪れた。

しかし、更に感動的だつたのは、翌１０月２日に開会された「あすなろ国体」であつた。天皇陛下の御出席して居られたこの開会式で目のあたり見せつけられた団結力の生む素晴らしい成果、集団演技の美しさ、それらは団結無くしては有り得ないもので、あらためて日本人の団結力を思い知らされた。資源の無い日本が戦後３０余年でここ迄高度成長を達成出来た理由がうなづける。

日本全国から集結した若いエネルギーが、体育を通じて友情、親和を深め、未来を背負う社会人に育つて行く過程を見ているのだ、と思うと我々も遠く日本から離れていても、一日系人として僕達一人一人が日本を代表しているのだから、本国の名にふさわしい一社会人として活躍しようと言う固い決心を胸に抱きつつ青森を離れた。

１０月３日は秋田県大潟村にある、僕達の先輩もここで勉強した人が居ると言う秋田県立農業短期大学を訪れ、農業者と密接した研究開発、更には若い人材の育成を行なつている事について説明を受けた。又、国内では最高の技術レベルを持ち、機械化し、近代化した営農を行なつていると言う大潟干拓地、及び同地の農業試験場を訪れ、色々と興味深い話を伺がつた。しかし、土地の広さには馴れている僕達でさえも驚く１６万ヘクタール以上の広大な土地を干拓した事を聞き、又それを実際に見た時は本当に驚いた。そこが元湖であつたとは夢にも思えない程であつた。

その後、秋田県内の名所をめぐり、その美しい景色と自然に接し、合同研修会を終了した。

アパートの一人暮らしでマンネリ化しつつあつた心に新たな活気が甦り、同僚に会えた安心感も伴い、明日への勉強に意欲を奮かせ、友達と別かれた。

「合同研修会に参加して」

川上啓介

私は、3歳の時父母、兄姉につれられボリビヤ国に移住してもうはや16年となつた。今の私は、事業団研修として日本へ帰国し畜産を専攻とし長崎県畜産試験場におせわになり、畜産のいろんなことを学んでいる。だけど私が本当にやりたいというのは畜産だけを学ぶことではなく、いろんなめんで学ばなければならない、まず私が学ぶことは、社会的、精神的そのほかに学びたいと思つたのは運動であつた。

技術的には機械電機関係を学びたいと思つていた、だけど機械電機関係と言うものは私にはその知識と言うものがなかつた。だからこそ畜産を専攻で事業団研修生として日本にやつてきた。なぜなら畜産は高校時代に少し畜産知識と言うものを学んでいたからである。だからこれを専攻した以上畜産のことを一生懸命やりたいと思います。

それに運動は私にとつて本当に今までの楽しみであつた。いつもだから運動会なんかも毎年来るのがまちどうしいのであつた。なんで私がこんなに運動が好きだつたと言うと今までの私は足に自信があつたこれと言うのも小学生時代から青年にまじわりマラソンは去年の8月6日サンフアン際まで走つて来た。それにほかの運動と言うのは高校時代サッカー、バスケット、バレー、水泳、ほかいろんなことをやつて来た。だから日本に来て国体を見ると言うのは夢であつた。それに事業団から青森国体行きの文書が来たときは本当にうれしかつた。青森に行くのは長崎から言うと長い距離だつた。その長い距離も感じなく楽しかつた。

残念だつたのはその場で試合が見れなかつたことです。だけど試合はテレビで見ました。それよりも開会式の日は本当にすばらしいものを見せてもらつた。あのすばらしい会場の中でものすごい人ごみの中であの若い青年たちが汗水流して戦う剣道活動青年部にそしてラグビー活動青年部にしろ本当にすばらしかつた。

南米では考えられない青年活動であつた。

それに子供と婦人たちのおどりの芸のすばらしさあんな所は私達だけではなく南米にいる青年、婦人のみなさまに見てもらいたいことです。だけどこれを見れない南米の人にこの私達が見たことでみんなのためにこれを参考にして少しでも帰つてから青年活動というものをもつと強くやつてみたいと思います。だから日本に来て国体を見て、自分自身のためになつたと思つています。

そのほかこの合同研修に行つていろんなめんで自分のためになつたのは、この合同研修会には事業団研修生としていろんな目的と専攻で来ているそれらの青年が希望と夢を持つて日本に研修に来ている。その18人の人がおなじ行動で動き、いろんな所を見学した。秋田県では農業短期大学、農協ほかにいろいろな所を見学した。それにこの18人と言うものはみんな事業団研修生と言うことでいろんな話を自分の研修している場所がどう言うとこか、どんなことをやつているか、いろんな意見をだしあつた。だからこの合同研修会というのは自分には本当にためになつたこれと言うのも事業団研修生がどういうことをしているのか自分が事業団研修生としてこうゆうことをするべきかそれともしては悪いのかと言うのが判断できるだからこの研修会と言うのは自分にとつては本当にためになつたと思つていますためになつたというよりも自分には必要だつたです。

以上

昭和52年10月1日

「合同研修会に参加して」

パラグアイ国イグアス移住地　佐藤　満

研修先での北海道研修旅行から帰つて1週間後、第7期生の合同研修が青森県と秋田県で行なわれた。

10月1日正午青森駅で久しぶりに研修生達といつしよになりバスで目的地へ向う。遠くから来た連中は列車の旅でいささか疲れ果てた様な感じさえ見うけられた。僕など、いちばん近いとなりの岩手県からで4時間も列車に乗れば青森駅まで着いていた。この日は次の日に備え、八甲田温泉でゆつくり休む。

10月2日は第32回青森国体の開会式を見学した。「心ゆたかに、力たくましく」をスローガンに開催された「あすなろ国体」は史上初の青森県での冬、夏、秋の完全国体でもあるという。さすがに国をあげての催しだけあつて選手達、また国体演技のあのすばらしさには驚かされた。

「あすなろ」とは、ヒノキ科、青森県では「ヒバ」と呼び県の木として「あすこそヒノキになろう」ひたすらあすを目指して成長に努めるという伝説の木であるという。聖火台に灯がともされたあの一瞬から5日間にわたる競技がくりひろげられたのであろう。

この日、八甲田山も遠くからながめたが・・・この近所に住むほとんどの住民は農業以外の仕事に従事していると言う事だつた。

3日目は秋田県で八郎潟の干拓を見学した。琵琶湖につぐ日本第2の湖、八郎潟は総面積22,024ヘクタールの半かん湖で水深は、最深部でも4～5メートルに過ぎず湖底は平担で大部分はヘドロと呼ばれる肥沃な粘土質でおおわれていたのを埋め立てをして、新農村、大潟村が設置された。この農村、埋め立てをしたとひと口に簡単に表現できるがこの工事には20年もの長い年月が、莫大な経費がかかつているのであるという。

村の標高は全村海抜ゼロメートル以下であつて最深部でマイナス4メートル・・・と言う話を聞き、いつたいどんな工事が行なわれたのだろうか？・・・と誰もが不思議に感じるに違いない。造られた提防の延長が51.8キロメートル、巾2メートル、底巾261メートルもあるという。湖の水位よりひくい所で大規模農業が行なわれていることこ大潟村は植民地として、昭和42年から現在にいたるまで計580戸余りの農家が近代的な大型機械化一貫体系農業を営んでいる。入植者は、日本農業の将来のモデルとなるような新農村の建設を目指すパイオニアとして全国から選定された適格者が活躍しておられました。

大潟村では日本的な大規模農業を見学することができた。また、大潟村では県立農業短期大学で、講師の方々から村の概況とか当短大の概要などの説明を受けた後、校内を見学して回つた。ここには、先輩（第5回生）の田中愛さんがここの大学生の皆さんと一緒に勉強してブラジルに帰国され秋田短期大学で得た知識を振りし様り現地での生活に精をだしてご活躍されていることでしよう。

この合同研修では色々と僕自身にとつても大変大きな修得が出来たと思つております。3日間の合同研修で皆んなが互いの様子を知り励まし合いのこり少ない研修期間を、これらの経験を忘れずに一生けんめい頑張る事が出来ます。

この様な機会を与えて下さいました事業団の皆様に心から感謝いたしまして終りとします。どうもありがとうございました。

子弟研修生一覧表

第1回（昭和46年度）

国名	（推せん支部）	氏名	生年月日 年令	（日本） 学歴 現地	本籍地または 父親出身地	
ドミニカ	（サントドミンゴ） コンスタンサ	村田千秋	昭和 23. 3.14 23才	（小3中退） 中卒	鹿児島県川内市	
ブラジル	（ベレン） 第2トメアス	武藤義博	17. 4. 7 29才	（小卒） 中卒	福島県会津若松市	
	（レシーフェ） クピチェック	岡本耕次	25. 6.14 21才	（小4中退） 高卒	愛媛県 東宇和郡城内町	
	（リオデジャネイロ） フンシャール	池田秀広	27. 7. 5 19才	（なし）2世 中卒	広島県深安郡市村	
	（サンパウロ） グァタパラ	脇山昭治	25.10.28 20才	（小6中退） 工業学校 SENAI (職業訓練コース)卒	佐賀県唐津市	
	（サンパウロ） ピニャール	山田豊	23.10. 6 22才	（中卒） 小2修了	福井県武生市	
ボリビア	（サンタクルス） サンファン	仁田原豊	23. 9. 4 23才	（小3中退） 高1中退	福岡県八女郡黒木町	
パラグアイ	（アスンシオン） エンカルナシオン	安田孝	12. 4. 3 34才	（大2中退） なし	秋田県仙北郡協和村	
アルゼンチン	（ブエノスアイレス） ブエノスアイレス州 クァルテル・クァルト・モレノ	榎本一稔	27. 3.26 19才	（なし）2才 渡航時 中卒	和歌山県田辺市	

移住者子弟技術研修生一覧表

研修機関	研修内容
鹿児島県 農村センター 高等部園芸科	そ菜培，午前中講義受講，午後除草，消毒，出荷等実習。研修旅行（ヤンマー長浜研習所で3日間農業用エンジン分解・組立実習，長野県営伝中央農場，京都タキイ種苗見学）。
福島県立 農業短期大学 協同組合科	農業経済，農業簿記，農協原論，農協経営論，農業法規，農業機械等講義受講。研修旅行（静岡県三ケ日農協他2ケ所）。県内湯野農協等で実習。
愛媛県 果樹試験場南予分場	講義～落葉果樹，病虫害防除，土壌肥料，柑橘栽培等。 実習～夏柑採果，除草，薬剤散布，落果調査等。 落葉果樹研修。
広島県立 西条農業高等学校 広島県 食品工業試験場	果物の成分検査，イチゴジャム，ママレードの加工実習，トラクター運転実習，工場見学（三島食品）7／26～8／3県食品工業試験場で研修（農産物加工製造技術および同分析法の課程終了）
佐賀県　養鶏試験場	養鶏経営（衛生，繁殖，育種等）を中心とした講義受講。解体，飼料配合等の実習。全販連佐賀種鶏場における雛卵舎，育雛舎，病理解体等の場外実習。
福井県 農業後継者センター 本科畜産専攻	乳牛飼育について午前中講義，午後実習。5／24から1ケ月間農家実習(乳牛) 7／19～24第2回全国農村青少年研修交換大会（於　八ケ岳）に参加。
福岡県　種鶏場	衛生面を主体に育雛管理，防疫，解剖等の実習。飼料，設備，交配等専門的分野の講義受講。9月より2ケ月間民間養鶏場で実習（飼育管理の実際，販売流通システム等）。
秋田県立 金足農業高等学校 農協専攻科	農協法，農業経済，簿記等講義受講。7／23～29県経済連で各支部実習。金浦農協等県内農協で実習。8／10～13埼玉県川口市内で農業研修
和歌山県 農業大学校 園芸科花卉部門	農業経営，果樹，作物，畜産，農業機械等講義受講。 サルビア，マリーゴールド，ペゴニア等の育苗，定植その他の花卉実習。

第 2 回（昭和47年度）

国名	地区	氏名	生年月日（年令）	渡航年月日	学歴（日本）現地	本籍地または父親出身地	
ブラジル	リオ・デ・ジャネイロ市 パブカイヤ地区	横山 覚	S. 29. 5.16 (18)	2 世	(－) 中 卒	(父)福 島	
	サン・パウロ州 ジャカレイ移住地	山上 とし子	26. 1.26 (21)	S. 40. 8	(中3中退) 中1中退	愛 媛	
	サン・パウロ州 桜植民地	佐藤良洋	25. 5.26 (22)	38. 1	(中1中退) (－)	北 海 道	
	アマゾナス州 マナウス市	石沢力雄	22. 8. 9 (25)	29. 4	(－) 商高卒	山 形	
	ペルナンブーコ州 リオ・ボニート入植地	森村正隆	17.10.11 (29)	31. 7	(中2中退)	群 馬	
	サンタ・カリーナ州 ラーモス移住地	日浦秀雄	20.10.19 (26)	37.10	(中 退)	北 海 道	
パグライ	イタプア県 フラム移住地	久岡 寛	16. 6.19 (31)	33. 7	(高一修了) 小4修了	高 知	
ボリビア	サンタ・クルース県 オキナワ オキナワ第3移住地	久高将行	24. 8. 3 (24)	36.	(小6中退) 高 卒	沖 縄	
ドミニカ	ベラピア県 パニー地区	藤川 求	22.12.13 (23)	32.10	(小4中退) 高2在中	愛 媛	

移住者子弟技術研修生一覧表

研修機関	主な研修内容
福島県立 小高農業高等学校	そ菜・園芸・農学一般
堺市養鶏農業協同組合	畜産（ブロイラ養鶏）
神奈川県立 農業大学校別科	花卉・果樹
埼玉ハム有限会社	畜産加工（ハム・ソーセージ）
群馬県畜産試験場	そ菜・畜産
長野県園芸試験場	果樹（リンゴ）
群馬県立 農業大学校畜産学校	養　蚕
三井物産(株)大阪支店 原綿糸織物部綿花課	① 綿花事情 ② 綿花格付士資格取得 （アメリカ）
雇用促進事業団 愛媛総合高等職業訓練校	農業機械修理

第3回移住者子弟

国名	地区名	氏名	年令	性別	渡航月日	渡航時年令
ブラジル国	ノボ・フリブルゴ	野口忠義	24	男	昭和32年 3月	8才
同上	ガタパラ	設楽新作	23	男	〃 38年 7月	13〃
同上	日光	佐々木哲朗	23	男	〃 34年 2月	8〃
同上	ノボ・ムンド	大塚寛	22	男	〃 32年 8月	6〃
同上	第2トメアスー	西田清	21	男	〃 41年 2月	14〃
同上	サンタレン	千葉京子	23	女	〃 29年12月	5〃
同上	クビチエック	東春好	20	男	〃 35年 3月	7〃
同上	イボチ	三輪新太郎	22	男	〃 29年11月	3〃
パラグアイ国	アルト・パラナ	永井儀昭	28	男	〃 36年 4月	16〃
同上	イグアス	渡辺準一	20	男	〃 42年 6月	14〃
同上	アマンバイ	岡本儀彦	25	男	〃 33年 8月	10〃
アルゼンチン国	カルアベー	小野達朗	24	男	〃 36年 4月	12〃
ボリビア国	オキナワ第1	根間玄真	25	男	〃 29年 7月	6〃
同上	サンフアン	長谷研詞	22	男	〃 30年 5月	4〃
ドミニカ国	ビセンテ・ノーブレ	鈴木雅	23	男	〃 33年 5月	9〃

技術研修生一覧表

本籍地	研修科目	研修先	
北海道	花卉	神奈川県立農業大学校	(48. 4 ～ 49. 3)
		(篤農家) 大沢春吉	(49. 4 ～ 49. 9.)
茨城	養蚕	群馬県蚕業試験場	(48. 4 ～ 49. 9)
愛媛	養蚕	同上	
徳島	農協	徳島県農協中堅職員養成所	(48. 4 ～ 48. 7)
	〃	徳島県石井町農業協同組合	(48. 8. ～ 48.11)
	貿易	大洋漁業(株) 貿易第2部	(48.12 ～ 49. 9)
宮崎	農業機械	農林省農業技術研修館	(48. 4 ～ 49. 3)
		茨城イセキ販売(株)ほか	(49. 4 ～ 49. 9)
宮城	農産加工	宮城県立上沼農校実習部	(48. 4 ～ 48.11)
		清水市農業協同組合	(48.12 ～ 49. 3)
長崎	花卉	長崎県総合農林センター	(48. 4 ～ 48. 9)
		長崎県大村果樹試験場	(48.10 ～ 49. 9)
静岡	果樹	山梨県果樹試験場	(48. 4 ～ 49. 3)
		(篤農家) 内田金之助	(49. 4 ～ 49. 9)
愛媛	畜産	農林省十勝種畜牧場	(48. 4 ～ 48.11)
		群馬県畜産試験場	(48.12 ～ 49. 9)
福岡	畜産	農林省十勝種畜牧場	(48. 4 ～ 48.11)
		埼玉種畜牧場	(48.12 ～ 49. 9)
兵庫	農協	兵庫専修職業訓練校	(48. 4 ～ 49. 3)
		兵庫県姫路農業協同組合	(49. 4 ～ 49. 9)
宮崎	果樹	宮崎県立農業大学	(48. 4 ～ 48.10)
		長崎県大村果樹試験場	(48.11 ～ 49. 3)
		農林省園芸試験場，興津支場	(49. 4 ～ 49. 9)
沖縄	農協	宮崎県立農協講習所	(48. 4 ～ 49. 3)
	貿易	兼松江商(株)	(49. 4 ～ 49. 9)
長崎	農業機械	農林省農業技術研修館	(48. 4 ～ 49. 3)
		イセキ・カワサキサービス販売(株)	(49. 4 ～ 49. 9)
愛知	果樹	愛知県農業総合試験場	(48. 4 ～ 49. 9)

第４回移住者子弟技術研修生

地　　区	氏　　名	研修職種	研　修　機　関　名	
リオ・デ・ジヤネイロ イタグアイ	岡崎ソニア・マリア （２６才）	花　　卉	(株)赤塚植物園	
サンパウロ グアタパラ	渡　辺　一　寛 （２５才）	養　　鶏	茨城県養鶏試験場	
サンパウロ 日　光	中　村　　弘 （２７才）	養　　蚕	群馬県蚕業試験場	
サンパウロ ピニヤール	深　沢　裕　夫 （２３才）	果　　樹	山梨県果樹試験場	
サンパウロ バルゼア・アレグレ	西　山　立　美 （２０才）	農産加工	山口県経済農業協同組合連合会 山口加工場	
ベレーン モンテ・アレグレ	髙　谷　和　夫 （２６才）	牧　　畜	福岡県種畜場	
ベレーン マナウス	出　田　洋　次 （２４才）	自動車整備	熊本県専修職業訓練校	
ベレーン アカラ	細　越　卓　美 （２１才）	〃	東京都江戸川高等職業訓練校	
レシーフエ クビチエツク	竹　並　明　弘 （２１才）	柑　　橘	福岡県園芸試験場	
レシーフエ クビチエツク	神　田　　晃 （１９才）	〃	〃	
ポルト・アレグレ イタチ	宮　崎　信　輔 （２８才）	果　　樹	熊本県果樹試験場	
アスンシオン フラム	渡　辺　保　夫 （２３才）	農　　協	広島県農業協同組合研修センター	
アスンシオン アマンバイ	原　本　　功 （２６才）	〃	高知県大方農業協同組合	
アスンシオン アスンシオン	堤　田　元　克 （２２才）	果　　樹	山梨県果樹試験場	
ブエノス・アイレス アンデス	米　　慎　也 （２１才）	〃	〃	
ブエノス・アイレス ガルアペー	植　松　吉　巻 （２４才）	〃	農林省果樹試験場 興津支場	
サンタ・クルース オキナワ	平　良　賢　次 （２７才）	農　　協	福岡県農業協同組合講習所	
サンタ・クルース サンフアン	藤　井　恒　正 （２６才）	〃	〃	
サンタ・クルース オキナワ	幸　地　哲　雄 （２３才）	〃	〃	
サント・ドミンゴ ハラパコア	福　永　正　彦 （２６才）	農業機械	佐賀県農業研修学園	

研修機関一覧表

（昭和４９年４月）

郵便番号	所在地	電話番号	最寄駅	備考
514-22	三重県津市高野尾町	(0592) 26-2851	紀勢本線 津	代表取締役：赤塚充良
311-31	東茨城郡茨城町大字小幡字栗林320の3	(02929) 2-1133	常盤線 水戸	場長：吉田貢
371	前橋市総社町総社2326の2	(0272) 51-5145	上越線 群馬総社	場長：宮沢鉄雄
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	中央本線 山梨	場長：大野俊雄
759-11	山口市仁保下郷第1,771	(08392) 7-0111	山口線 山口	会長：滝口純 工場長：村本俊雄
838-01	小郡市北中尾4839の7	(09427) 2-2128	甘木線 筑後小郡	場長：尾高従宣
861-41	熊本市御幸笛田町375	(0963) 64-1217	熊本電鉄 北熊本	校長：有働安則
132	都内江戸川区中央2－31－27	(03)653 1221	総武線 新小岩	校長：鈴木興一
814	福岡市南区大字柏原571	(092) 55-1861	筑肥線 筑前高宮	場長：小原赳
〃	〃	〃	〃	〃
861-53	飽託郡河内町船津	(096300) 24	鹿児島本線 熊本	場長：西田久仁穂
730	広島市牛田町早稲田	(0822) 22-5262	山陽本線 広島	所長：大田黒兜
789-19	高知県幡田郡大方町		中村線 入野	町長：小野川俊二 組合長：長野正季
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	中央本線 山梨	場長：大野俊雄
〃	〃	〃	〃	〃
424-02	清水市興津中町	(0543) 69-2111	東海道線 興津	支場長：千野知長 場長：佐藤公一
813	福岡市東区大字名島字汐見2751の38	(092) 68-0304	香椎線 土井	所長：原田猛
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
840-22	佐賀郡川副町南里	(09524) 5-2145	佐賀線 南佐賀	園長：吉岡充男

第５回移住者子弟技術

支部および地区名	氏　名	年令	本籍地	研修希望職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ					
ブラジリア	大城竹幸	23	沖縄	観葉鉢物	第一園芸KK富士園芸研修学校
サンパウロ					
日光	有田和人	28	愛知	果樹園芸	山梨県果樹試験場
ビニヤール	広瀬昭憲	22	福井	農業機械	福井県農業試験場
ムンドノーボ	田中愛	18	秋田	生活改善	秋田県農業短期大学
ジャカレイ	立石賢二	19	岡山	花卉園芸	岡山県農業大学校
グアタパラ	小林武久	19	長野	畜産（養豚）	長野県畜産試験場
日光	中村清	25	三重	養鶏	三重県農業経営大学校
ペレーン					
第2トメアス-	平水繁	26	宮崎	畜産（牧畜）	熊本県草地畜産高等研修所
〃	遠藤憲一	27	福島	〃	福島県畜産試験場
トレーゼセテンブロ	須藤毅	21	福島	自動車整備	仙台高等職業訓練校
レシーフェ					
サルバドール	吉井丈治	19	千葉	畜産（牧畜）	群馬県畜産試験場
ポルト・アレグレ					
ラーモス	鈴木等	24	北海道	果樹	長野県園芸試験場
アスンシオン					
イグアス	関節朗	20	群馬	養蚕	群馬県蚕業試験場
アルト・パラナ	工藤則吉	23	岩手	旋盤・電気溶接	盛岡専修職業訓練校
アマンバイ	下元敬	22	高知	畜産	群馬県畜産試験場
ブエノス・アイレス					
ガルアペー	水野悦郎	24	長野	柑橘	静岡県柑橘果樹試験場
ウルキツサ	西田孝	18	長崎	花卉(カーネーション)	長崎県総合農林試験場
サンタ・クルース					
サンフアン	牧尾孝司	19	長崎	畜産（牧畜）	長崎県畜産試験場
オキナワ	宮城邦夫	22	沖縄	〃	〃　〃
〃	池原正英	21	〃	〃	〃　〃

研修生研修機関一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
410-13	静岡県駿東郡小山町上野字下ノ原1101	佐藤正司	0550-6-0645
405	山梨市万力1530	大野俊雄	05532-2-1921
910	福井市寮町辺縁52－22	石墨慶一郎	0776-24-5100
010-04	南秋田郡大潟村	佐藤健吉	018545-2026
710	赤磐郡赤坂町東窪田177	徳長剛	086957-2211
399-07	長野市塩尻大字片丘10847	久保田建御	02635-2-1186
515-22	一志郡嬉野町川北	竹内博	059844-2-1258
869-23	阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦1454	寺本一人	09673-2-1231
960-21	福島市荒井字地蔵原甲18	吉田武紀	024504-4
983	仙台市田子字寺1	鈴木正雄	0222-58-1151
371-01	勢多郡富士見村小暮2425	大江正直	027288-2222
382	須坂市大字小河原492	広瀬健吉	02624-5-0295
371	前橋市総社町総社2326-2	宮沢鉄雄	0272-51-5145
	盛岡市南仙北3－10－40	外岡九郎	0196-36-1706
371-01	勢多郡富士見村小暮2425	大江正直	027288-2222
424	清水市駒越2712	中間和光	0543-34-5351
854	諫早市貝津町3118	高木睦夫	09572-2-3330
859	南高来郡有明町湯江丁3600	宮島良明	0957605-516
859	〃　〃	〃	〃
859	〃　〃	〃	〃

第6回移住者子弟技術

支部および地区名		氏名	年令	本籍地	研修職種	研修機関名
(リオ・デ・ジャネイロ)	イタグアイ	畠山幸枝	26	(石川)	生活改善	宮城ドレスメーカ専門学校
(サンパウロ)	モジ・ダス・クルーセス	米村隆一	20	(熊本)	花卉園芸	熊本県農業試験場園芸支場
	ロンドリーナ近郊	大塚由起子	25	熊本	生活改善	宮城ドレスメーカ専門学校
	グアタパラ	高橋定次郎	26	山形	畜産	山形県立農業経営大学校
	日光	竹田和夫	27	高知	農業機械	神奈川県農業大学校
(ペレーン)	グアマ	米川洋二	27	熊本	畜産	安達養鶏場
	ペラピスタ	喜納清美	21	(大分)	農業機械	北海道フォードトラクター(株)
	第2トメアスー	四元敏夫	24	宮崎	農業機械	北海道立中央農業試験場
(レシフエ)	レシフエ近郊	岩田健一	25	(長野)	畜産	千葉県畜産センター
(ポルト・アレグレ)	ラーモス	桑原正行	29	長崎	花卉園芸	北山兄弟バラ園
(アスン シオン)	イグアス	公文茂男	25	高知	畜産	岡崎牧場
	アトト・パラナ	篠藤喜男	23	愛媛	農協業務	愛媛県農業協同組合研修所
	アマンバイ	岡本深幸	25	兵庫	生活改善	日本高等国民学校
(ブエノス・アイレス)	ウルキッサ	橋本敬之	29	福岡	花卉園芸	花卉栽培農家
	〃	木村茂	24	群馬	花卉園芸	群馬県園芸試験場
(サンタ・クルス)	サンフアン	畑原等	25	長崎	農業機械	岩見沢機械センター(株)
	〃	吉永末広	24	長崎	農協業務	川副農業協同組合
	オキナワ	山城博明	21	沖縄	畜産	沖縄県家畜衛生試験場

研修生研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
980	宮城県仙台市春日町９番１０号	菅野貞子	0222-22-5221
861-11	熊本県菊地郡西合志町須屋２４５０	小林研三	09624-2-0167
980	宮城県仙台市春日町９番１０号	菅野貞子	0222-22-5221
996	山形県新庄市大字角沢１３３６	新関信一郎	02332-2-1527
243-04	神奈川県海老名市杉久保２００６	和泉清久	0462-21-5274
861-01	熊本県鹿本郡植木町岩野９２７	安達　誠	09627-2-0359
078-02	旭川市永山三条６丁目６４番地	葛薄達雄	0166-48-1101
069-13	北海道夕張郡長沼町東六線北１５	島崎佳郎	01238-9-2311
289-11	千葉県印旛郡八街町滝台	鹿間義之	0472-95-4511
	アメリカ合衆国カリフォルニア州ユニオンシティ	Ted 北山	
780	高知県高知市円行寺１６９	岡崎正英	0888-72-9496
791-31	愛媛県伊予郡松前町西高柳	岡田慎吾	08998-4-2243
319-03	茨城県東茨城郡内原町内原１４９７	加藤弥進彦	029259-2003
834	福岡県八女市大字忠見３８４	藤田　恵	09432-2-4635
379-22	群馬県佐波郡東村大字西小保方４９３	中村吉男	02706-2-1021
068	北海道岩見沢市四条１５丁目３番地	渡辺一一	01262-2-4421
840-22	佐賀県佐賀郡川副町大字鹿江２３０４	大坪　平	09524-5-5111
902	沖縄県那覇市古波蔵１１２	上里宜治	0988-32-1515

第7回移住者子弟技術研修生

支部および地区名		氏名	年令	本籍地	研修職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ	バルバセーナ	市来清文	27	宮崎	花卉園芸	美香園
サンパウロ	ロンドリーナ	高橋昇ジュリオ	27	(北海道)	養蚕	群馬県蚕業試験場
	イタペチ	土生誠一	26	宮城	花卉園芸	株式会社 小池硝子店
	サンパウロ	樋口寛	26	熊本	建築施工	戸田建設株式会社
	〃	服部ロウレンソ	23	(秋田)	電話交換機工事	日本通信建設株式会社
	スザノ	上西川原猛	29	鹿児島	自動車修理	千葉トヨタ自動車株式会社
ベレーン	サンタ・イザベル	三宅正剛	24	長崎	自動車修理	長崎県交通局中央自動車整備工場
	ポルト・ベーリョ	服部元	26	東京	農協経理	熊本県信用農業協同組合連合会
レシフエ	サルバドール	平田繁実	22	長野	電気工事	有限会社 梅本電設
アスンシオン	エンカルナシオン	荒槇文彦	24	広島	食油精製	日清製油株式会社
	ラ・コルメナ	三井昭	30	(長野)	果樹園芸	功刀幹治(方)
	イグアス	佐藤清	21	岩手	農協経理	住田農業協同組合
ブエノス・アイレス	ウルキツサ	西田克己	25	長崎	花卉園芸	藤田侃司
	ヘネラルパチエコ	光田友宏	25	(愛媛)	花卉園芸	水田洋蘭園
サンタ・クルス	サンフアン	上野克之	22	長崎	養鶏	石田鉄工株式会社
	〃	川上啓介	20	長崎	畜産	農林省十勝種畜牧場
	オキナワ第1	安里マルセロ	21	沖縄	養鶏	沖縄県家畜衛生試験場
サント・ドミンゴ	レモンデ・ジウナ	川代康夫	24	北海道	畜産	農林省十勝種畜牧場

研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所　在　地	代表者名	電話番号
732-22	広島県佐伯郡大柿町大原	長坂五郎	082357-2204
371	群馬県前橋市総社町総社2326-2	岡部光波	0272-51-5145
989-02	宮城県白石市字沢目6番	小池宗次	02242-6-2376
104	東京都中央区京橋1丁目3番地　新八重州ビル	戸田順之助	03-562-6111
108	東京都港区高輪3丁目23番14号	津重正	03-447-2111
280	千葉県千葉市登戸町2丁目140番地	島海一郎	0472-41-8111
854	長崎県諫早市貝津町1481	平井寛	09572-6-1642
860	熊本県熊本市南千反畑町2番3号	吉永淳	0963-55-6345
860	熊本県熊本市清水町万石6番地	梅本明助	0963-44-2323
235	神奈川県横浜市磯子区新森町1番地	大島政志	045-751-1281
400-02	山梨県中巨摩郡白根町西野2854	功刀幸浩	05528-2-2557
029-24	岩手県気仙郡住田町下有住字十文字	佐藤博	01924-8-2311
673-02	兵庫県神戸市垂水区平野町福中147	藤田侃司	078-961-2101
472	愛知県知立市牛田町芋堀1番地	永田一策	0566-81-0041
498	三重県桑名郡木曽岬町東見入	石田昭三	05676-5-1155
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園信善	015597-31-2
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上里宣治	0988-32-1515
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園信善	015597-31-2

第8回移住者子弟技術

支部および地区名		氏　名	年令	本籍地	研修機関	研修機関名	
リオ・デ・ジャネイロ	レンシヤール	今村真一	22	福岡	畜　産	福岡県種鶏場	
サンパウロ	サンパウロ	林田秀房	23	(熊本)	油圧技術	太陽鉄工株式会社	
	サンパウロ	百合正夫	27	(愛媛)	果樹園芸	長野県農業総合試験場	
	クリチーバ	高橋富アリ	25	(福島)	養魚　化	石川県増殖試験場	
	モジ・ダス・クルーゼス	田中勝彦	22	香川	食用作用	熊本県農業試験場園芸支場	
ベレーン	マナオス	高野箱弥	25	北海道	自動車整理	苫小牧専修職業訓練校	
	グアマ	横山富貴子	22	宮崎	生活改善	日本高等国民学校	
ポルト・アレグレ	イタブアン	道田藤吉	20	熊本	果樹園芸	熊本県果樹試験場	
	ラーモス	岩崎正基	22	山口	果樹園芸	岡山県農業試験場	
アスンシオン	アマンバイ	中島義明	29	熊本	農業機械	神奈川県立農業大学校	
	フラム	松岡　健	18	高知	農協運営	福岡県農業協同組合講習所	
	アルト・パラナ	石原由起	17	(兵庫)	医　療	聖ヨゼフ病院准看護学院	
ブエノス・アイレス	ガルアペー	山田陽二	29	広島	花卉園芸	赤塚植物園	
サンタ・クルス	サンフアン	近藤　勇	18	(新潟)	畜　産	農林省十勝種畜牧場	
	サンフアン	山口政雄	19	長崎	農業機械	長崎高等職業訓練校	
	オキナワ第1	具志堅　進	22	(沖縄)	農業機械	具志川専修職業訓練校	
	オキナワ第3	仲村安栄	24	沖縄	電気工事	具志川専修職業訓練校	

研修生研修機関一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
818-01	福岡県筑紫郡太宰府町大字太宰府	岡野　昇	09292-2-4100
533	大阪府大阪市東淀川区北江口町48番地	北浦　富太郎	06-340-1111
382	長野県須坂市大字小河原492	広瀬　健吉	02624-6-2411
926-02	石川県鹿島郡能登島町字曲	大山　岩雄	076784-43
861-11	熊本県菊池郡西合志町須屋2450	牛島　弘行	09624-2-0167
053	北海道苫小牧市日吉町3丁目4番の1	下村　康之	0144-73-5212
319-03	茨城県東茨城郡内原町1497	加藤　弥進彦	029259-2003
869-05	熊本県上益城郡松橋町豊福2566	大浜　博	09643-2-1723
709-08	岡山県赤磐郡山陽町神田沖1174－1	松本　蕃	08695-5-0271
243-04	神奈川県海老名市杉久保2006	和泉　清久	0462-31-5274
813	福岡県福岡市東区大字名島2751～38	太田　政親	092-681-0304
238	神奈川県横須賀市緑が丘28番地	堤　弘久	0468-22-2134
514-22	三重県津市高野尾町1868の3	赤塚　充良	0592-30-1234
085-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園　信善	015597-31-2
859-06	長崎県西彼杵郡長与町高田郷	山口　忠夫	0958-56-8151
904-22	沖縄県具志川市字兼箇段1945番地	比屋根　隆夫	098972-5954
904-22	沖縄県具志川市字兼箇段1945番地	比屋根　隆夫	098972-5954

LIB